

読書科演習資料

Library Skills Workbook

1年 組 番
2年 組 番
3年 組 番

氏名：



関西学院中学部

KWANSEI GAKUIN JUNIOR HIGH SCHOOL

この「読書科演習資料」は、関西学院中学部司書教諭であった川北信彦先生、および関西学院中学部教諭である重松一朗先生が中心となって編集・執筆された『新編読書科演習資料』（関西学院中学部、2000）を土台に、以下の資料を主な参考資料としました。

- ・ 梅棹忠夫『知的生産の技術』（岩波新書、1969）
- ・ 木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981）
- ・ 小林宏『読書する中学生—関西学院における一つの試み』（関西学院中学部、1985）
- ・ 木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま文庫、1994）
- ・ アドラー、M.J.・ドレーン、C.V.、外山滋比古・榎未知子（訳）『本を読む本』（講談社学術文庫、1997）
- ・ 宅間紘一『新版はじめての論文作成術—問うことは生きること』（日中出版、2003）
- ・ 泉忠司『泉式文科系必修論文作成術』（夏目書房、2003）
- ・ 毎日ムック・アミューズ（編）『おもしろ図書館であそぶ—専門図書館 142 館完全ガイドブック』（毎日新聞社、2003）
- ・ 日本図書館協会図書館の自由委員会（編）『「図書館の自由に関する宣言 1979 年改訂」解説』（日本図書館協会、2004）
- ・ 塩見昇（編著）、川崎良孝（編著）『知る自由の保障と図書館』（京都大学図書館情報学研究会、2006）
- ・ 野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書、2006）
- ・ キム・ジョンキュー『知的な大人の勉強法—英語を制する「ライティング」』（講談社現代新書、2006）
- ・ 田中孝一（監修）ほか『中学校・高等学校 PISA 型「読解力」—考え方と実践』（明治書院、2007）
- ・ L. カッソン、新海邦治（訳）『図書館の誕生—古代オリエントからローマへ』（刀水書房、2007）
- ・ 創元社編集部（編）『関西図書館あんなに BOOKMAP—大阪 兵庫 京都 奈良 滋賀 和歌山 専門 大学 公共』（創元社、2007）
- ・ Kelly Kennedy-Isern、竹内理（編）、西香生里（編）、藪越知子（編）『基礎からわかるパラグラフ・ライティング』（松柏社、2007）
- ・ 塩見昇（編著）『図書館概論』（日本図書館協会、2008）
- ・ 中村百合子『占領下日本の学校図書館改革—アメリカの学校図書館の受容』（慶應義塾大学出版会、2009）
- ・ 桑田てるみ（編著）、学校図書館とことばの教育研究会『思考力の鍛え方—学校図書館とつくる新しい「ことば」の授業』（静岡学術出版、2010）
- ・ 庭井史絵（編著）、チームちりぶろ『地理で学ぶ 6 ステップ探究学習—学校図書館を活用したカンタン世界の国調べ』（2010）
- ・ アメリカ・スクール・ライブラリアン協会（AASL）（編）『21 世紀を生きる学習者のための活動基準』（全国学校図書館協議会、2010）
- ・ アメリカ・スクール・ライブラリアン協会（AASL）（編）『学校図書館メディアプログラムのためのガイドライン』（全国学校図書館協議会、2010）
- ・ 日本図書館協会図書館利用教育委員会、図書館利用教育ハンドブック学校図書館（高等学校）版作業部会（編著）『問いをつくるスパイラル—考えることから探究学習をはじめよう！』（日本図書館協会、2011）
- ・ 小野田博一『13 歳からの論理的な文章のトレーニング』（PHP 研究所、2012）
- ・ 倉島保美『論理が伝わる「書く技術」』（講談社ブルーバックス、2012）
- ・ 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』（NHK 出版、2012）
- ・ 全国学校図書館協議会『6 プロセスで学ぶ—中学生・高校生のための探究学習スキルワーク』（全国学校図書館協議会、2012）
- ・ 桑田てるみ（監修）『鍛えよう！ 読むチカラ—学校図書館を育てる 25 の方法』（明治書院、2012）
- ・ 成田康子『みんなで作ろう学校図書館』（岩波ジュニア新書、2012）
- ・ Kuhlthau, C.C., Maniotes, L.K., Caspari, A.K. (2012). Guided inquiry design. Libraries Unlimited.
- ・ 大迫弘和『国際バカロレア入門—融合による教育イノベーション』（学芸みらい社、2013）
- ・ 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室—3 つのステップ』（新曜社、2013）
- ・ 後藤芳文、伊藤史織ほか『学びの技—14 歳からの探究・論文・プレゼンテーション』（玉川大学出版部、2014）
- ・ 倉島保美『論理が伝わる世界標準の「プレゼン術」』（講談社ブルーバックス、2014）
- ・ 山元隆春（編著）『読書教育を学ぶ人のために』（世界思想社、2015）
- ・ 桑田てるみほか『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版』（実教出版、2015）
- ・ Callison, D. (2015). The Evolution of inquiry: controlled, guided, modeled, and free. Library Limited.
- ・ 今井福司『日本占領期の学校図書館—アメリカ学校図書館導入の歴史』（勉誠出版、2016）
- ・ 猪原敬介『読書と言語能力—言葉の「用法」がもたらす学習効果』（京都大学学術出版会、2016）
- ・ 塩谷京子（編著）『すぐ実践できる情報スキル 50—学校図書館を活用して育む基礎力』（ミネルヴァ書房、2016）
- ・ 桑田てるみ『思考を深める探究学習—アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』（全国学校図書館協議会、2016）
- ・ 片岡則夫（編著）『「なんでも学べる学校図書館」をつくる—ブックカタログ&データ集』1・2（少年写真新聞社、2013・2017）
- ・ 根本彰『情報リテラシーのための図書館—日本の教育制度と図書館の改革』（みすず書房、2017）
- ・ 逸村裕、田窪直規ほか（編著）『図書館情報学を学ぶ人のために』（世界思想社、2017）
- ・ 読書猿『アイデア大全』（フォレスト出版、2017）
- ・ 読書猿『問題解決大全』（フォレスト出版、2017）
- ・ 柳与志夫、田村俊作（編）『公共図書館の冒険』（みすず書房、2018）
- ・ 仲島ひとみ、野矢茂樹（監修）『それゆけ！ 論理さん—大人のための学習マンガ』（筑摩書房、2018）
- ・ ナンシー・アトウェル、小坂敦子（訳）、澤田英輔（訳）、吉田新一郎（訳）『イン・ザ・ミドル—ナンシー・アトウェルの教室』（三省堂、2018）
- ・ 小針誠『アクティブラーニング—学校教育の理想と現実』（講談社現代新書、2018）
- ・ ジョン・ハッティ、山森光陽（訳）『教育の効果—メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化』（図書文化社、2018）
- ・ 全国学校図書館協議会（制定）『情報資源を活用する学びの指導体系表』（2019 年 1 月 1 日制定）
- ・ 竹内愨『生きるための図書館—一人ひとりのために生きるための図書館』（岩波新書、2019）
- ・ 小笠原喜康、片岡則夫『中学生からの論文入門』（講談社現代新書、2019）
- ・ 日本読書学会（編）『読書教育の未来』（ひつじ書房、2019）
- ・ 根本彰『学校改革のための学校図書館』（東京大学出版会、2019）
- ・ 山本順一（編）、三浦太郎（編）『図書・図書館史—図書館発展の来し方から見てくるもの』（ミネルヴァ書房、2019）
- ・ 新藤透『図書館の日本史』（勉誠出版、2019）
- ・ 文部科学省「学習指導要領『生きる力』」（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm）2020 年 3 月 20 日確認

上に挙げた資料以外に、学校図書館、総合的な学習の時間、探究型学習、情報教育、読書教育、作文教育、アクティブラーニングに関する学会、研究会などでお世話になっている関係者、関西学院中学部・高等部・大学の教職員、とくに関西学院中学部の読書科をご担当いただいた黒原理恵先生、河野真也先生、青木友平先生、嶺坂なおみ先生、木本貴士先生、塩田千紗先生より、貴重なご意見をいただき、参考といたしました。この場を借りてお礼申し上げます。

関西学院中学部図書館ウェブサイト (<https://library.kgjh.jp/>)

はじめに 関西学院における図書館と「読書科」の歴史



関西学院における読書と図書館の歴史は古い。ときは、創立者初代関西学院院長 W.R. ランバス先生にさかのぼる。ランバス先生が「米国南メソジスト監督教会日本宣教総理」として 1886 (明治 19) 年 11 月 24 日に神戸に着任した 2 日目、まず着手した伝道のわざは、自宅を開放して「読書館」(Reading Room) を開設したことであった。関西学院が創立される約 3 年前のことである。キリスト教への信仰というものをただ感性に訴えるようなアプローチをとらず、知的な理解力に訴え、しかも読書を信仰への道筋として考えていったことは興味深い。

関西学院は 1889 (明治 22) 年 10 月、W.R. ランバス先生によって、兵庫県菟原郡原田村 (現在の神戸市灘区王子町) に設立され、神学部と普通学部とをもって開校した。最初の校舎は木造 2 階建 2 棟であった。9 月 28 日付で県より認可を受けた学校設立願書により添付された図面を見ると、この校舎の 1 階に 30 畳の書籍室という 1 室があり、集会室・講堂を兼ねていた。この書籍室は「しよじゃくかん」と呼ばれていて、単独の図書館とは言えないが、関西学院における図書館の出発点と考えられる。



▲ 神戸の原田村にあった関西学院全景。中央が書籍室のあった建物。(1889年)



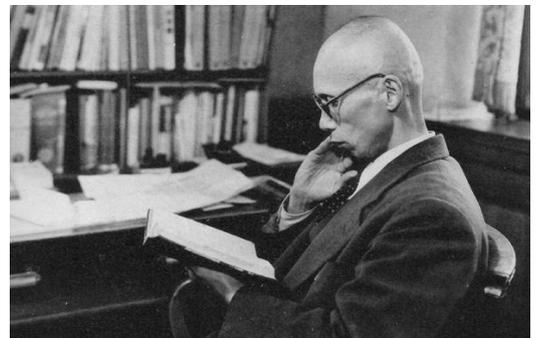
▲ 最近まで図書館として用いられていた関西学院の時計台

1929 (昭和 4) 年、関西学院が神戸の原田村から西宮上ヶ原キャンパスに移転したとき、時計台として図書館は建設された。建築家としても著名な W.M. ヴォーリズがキャンパスの全体設計をする際に、基点となる建物として配置。正門前の学園花通りから正門、中央芝生、時計台、甲山山頂を結ぶ軸線は、スパニッシュ・ミッション・スタイルで統一された建築群、緑豊かな環境とともにキャンパスの特長となっている。

関西学院が図書館を大切にしてきたさまは、戦後日本が民主主義を確立するため、学問の自由とそれにもとづく教育の自由を希求し、その身近な存在である学校図書館に遅々としながらも力を注いだ過程に通じる。

1947 (昭和 22) 年 4 月、新制中学部は旧高等部校舎 (現在中学部グラウンドがある場所に存在した) に同居する形態でスタートした。初代中学部部長矢内正一先生は、読書と図書館の重要性を認識し、まず教職員

室に生徒用の本を並べ、生徒の「読書室」としても開放していた。その後、読書への需要が高まるにつれて、それぞれのクラスにおいても学級文庫も設けられた。1951 (昭和 26) 年 4 月、中学部が現校舎本館に独立移転したとき、1 教室分の中学部専用の図書館 (以下中学部図書館) が設置された。矢内先生自身が担当された、1 年生週 1 回の授業である「生活指導科」において、読書やこの図書館についての指導がおこなわれた。1959 (昭和 34) 年 9 月、中学部図書館は 2 教室分に拡張改修された。



▲ 新制中学部初代部長矢内正一先生

1962 (昭和 37) 年 3 学期、「生活指導科」の授業は、矢内先生から中学部図書館を担当されていた川北信彦先生に委ねられ、川北先生による授業は 1963 (昭和 38) 年より 2・3 学期に拡大された。1964 年 4 月、川北先生は学校図書館法の定める司書教諭に就任し、1965 (昭和 40) 年 4 月より 1 年間通しての授業をおこなった。1967 (昭和 42) 年 4 月、第 3 代部長小林宏先生は、「生活指導科」を読書や図書館の指導に特化していた内実に合わせて「読書指導科」と改められ、以来略して「読書科」と呼ばれるようになる。



▲ 中学部図書館(1969年)

1976 (昭和 51) 年、精神鍛錬のための読書を重んじる第 11 代関西学院院長久山康先生の方針により、中学部教育の柱の一つとして「読書」が数えられるようになった。中学部の「読書科」を 1 年生週 1 回の授業から 3 年間週 1 回の授業に、そして高等部においても「読書科」を新設することが決まり、「読書生活の形成と深化」と「自主的自立的活動の体得」をその目的とした。1978 (昭和 53) 年 4 月より、中学部では、1 年

生・2 年生週 1 回の授業を川北先生が、3 年生週 1 回の授業を小林先生が担当され、3 年間通しての読書科の授業がおこなわれるようになった。のちに小林先生は、この授業における実践を『読書する中学生—関西学院における一つの試み』に著している。



▲ 川北信彦先生

1987 (昭和 62) 年 4 月より、1 年生・3 年生週 1 回の授業を川北先生が、2 年生週 1 回の授業を重松一郎先生が担当されるようになり、より体系的に展開されるようになった。それに応じるように、中学部図書館も、1989 (平成元) 年 9 月に普通教室 3 教室分、1997 (平成 9) 年 8 月には 4 教室分に拡張改修された。

近年の「読書科」の範疇における進展は目覚ましい。1989 (平成元) 年 4 月より高度情報化社会に対応すべく技術・家庭科において「情報」の項が、2002 (平成 14) 年 4 月より自ら学び自ら考える力や学び方・考え方を身に付けさせて問題を解決する資質や能力を育むべく「総合的な学習の時間」が、2003 年 4 月より 12 学級以上の学校に学校図書館運営の中心的役割を担う司書教諭が設けられた。代表的な文部科学省 (文部省) の施策だけでも以上のようなことから、実社会での進展は推して量ることができる。



▲ 中学部図書館(2012年)

それらを受けて中学部図書館と「読書科」は新たな歩みに入る。2012 (平成 24) 年 4 月、中学部は男子校から共学校になり、生徒数も増えた。これを契機として、ハード面、ソフト面両面の見直しがおこなわれた。教職員はもちろん、生徒や保護者の理解により、新校舎入口すぐに新しい中学部図書館が完成した。中庭に面し、明るく、同時に 3 学級が授業可能で、ネットワーク環境も整っている。「読書科」は各学年週 1 回の授業から、1 年生週 1 回、2・3 年生週 2 回の授業へと変わった。変化の激しいこれからの社会で「生きる力」をつける環境は整った。

2021 年度 (令和 3 年度) より、中学校では新しい学習指導要領での実施となる。従来の「知識・技能」に「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力、人間性等」を加えた、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実」が求められている。また「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」の視点から「学習過程の改善」も求められている。これらはすでに「読書科」において取り組んできた学びではある。しかし、日進月歩の ICT 機器の活用や実社会に即応する考え方やスキルの定着など、「読書科」は進化し続けなければならないと考えている。

読書科の目標は「自立した探究者の育成」である。具体的には「読書生活の形成と深化」と「自主的自立的活動の体得」と「高度情報化社会に対応する情報活用能力の育成」を目標としている。これから「読書科」や図書館で学び得ていく方法や技術は、他の教科だけでなく、高等学校、大学、実社会においても生きる、汎用性あるものと堅く信じている。また方法や技術だけでなく、その過程から豊かな人生を送るための普遍的な価値を見出してほしい。

II. 3年間の読書科の授業



A. 読書科の目標

「自立した探究者の育成」

1. 「読書生活の形成と深化」 「読書」＝書を読む
 - a. 本を読む生活習慣をつける
 - b. 心を豊かにする、精神をたがやす
 - c. 表現するための知識や教養を得る
 - d. 文明的な表現である文章を活用する力をつける
2. 「自主的自立的活動の体得」 「読書」＝読み書き
 - a. 調べる方法や技術を身につける
 - b. 社会のさまざまな問題に対応し、新たな社会をつくる
 - c. 自分で問題を見つけ、解決し、伝え、さらなる問題を見つける
3. 「高度情報化社会に対応する情報活用能力の育成」 「読書」＝情報
 - a. 情報活用の原理原則を理解する体得する
 - b. 知識・情報に関する社会的な義務と権利（知的財産権）を知る
 - c. メディアをつかひこなす基本的な力（メディア・リテラシー）をつける

B. 読書の目標

1. 1年生
 - ・ 本を読む習慣をつける
 - ・ 物語を読める
2. 2年生
 - ・ 新書が読める
3. 3年生
 - ・ 古典が読める

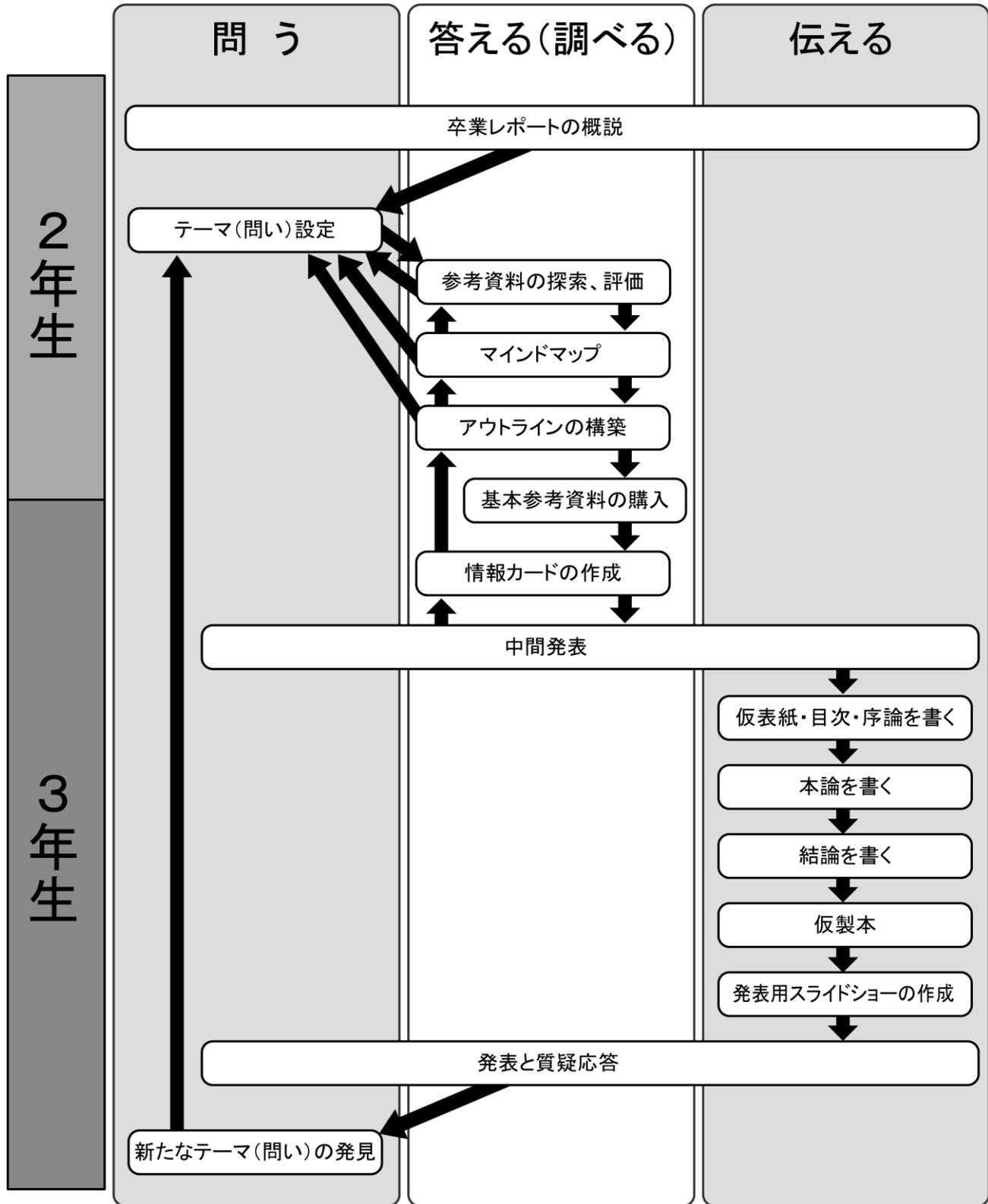
C. 学年ごとの読書科の授業

1. 1年生
 - ・ 図書館と本の理解
2. 2年生
 - ・ 情報の獲得、整理、活用
3. 3年生
 - ・ 学校図書館、各教科学習、修学旅行（体験）を核とした総合的な探究型学習

D. 3 年間の読書科の授業

		図書館・本への理解	課題の設定	メディアの利用	情報の活用	まとめと情報発信
1 年生	1 学期	学校図書館利用指導 ①			読書科オリエンテーション ①	
					基本的なレポートの書きかた ①	
		図書館の自由 ①				
		図書館の歴史 ①				
		図書館の種別 ②				
	夏休み			公共図書館の見学とレポートの作成		
				専門図書館の見学とレポートの作成		
	2 学期	大学図書館の見学 ①				
		図書館の目録 ①				
				グループによる校外学習ポスターの作成 ⑤		
冬休み	本と図書館と現代社会 ②					
			博物館・文書館の見学とレポートの作成			
3 学期					作文の技術 ④	
2 年生	1 学期	図書館のメディア ①			情報カードによる演習 ②	
				マインドマップによる演習 ④		
				ブレインストーミングによる演習 ③		
				参考図書（百科事典）、オンラインデータベース、ウェブを活用した総合演習 ⑦		
		新聞の特徴 ①				
	夏休み			事実と意見の違い ①		
				新聞記事の切り抜きと資料化		
	2 学期			ペアによる校外学習新聞 情報カードの作成 ⑦		作文の技術 ④
				ペアによる校外学習新聞 新聞の作成と発表 ⑦		
	冬休み	卒業レポート テーマ設定				
3 学期			卒業レポート 参考資料の探索と評価 ⑧			
			卒業レポート 仮説の設定 ②			
			卒業レポート アウトラインの構築 ②			
春休み			卒業レポート 基本となる参考資料の購入			
3 年生	1 学期				作文の技術 ④	
				卒業レポート 情報カードの作成 ⑫		
				卒業レポート 中間発表 ③		
	夏休み			卒業レポート 情報カードの作成（補完）		
				卒業レポート 目次・序論を書く		
	2 学期			卒業レポート 本論を書く ⑭		
				卒業レポート 結論を書く ③		
冬休み			卒業レポート 発表用資料の作成 ③			
3 学期			卒業レポート 製本			
			卒業レポート 発表と質疑応答（新たな問いの発見） ⑥			
		3年間の読書をふりかえる ①				

E. レポート作成にかかるプロセス



III. 「推薦図書リスト」と「10分間読書」



A. 目的

1. 本を読む習慣をつけるため
2. 文字や言葉や文章に慣れ親しむため
3. 基本的な書誌情報の書き方を知るため
4. B6 カードに慣れるため

B. 「推薦図書リスト」

1. 中学部が推薦する 200 冊+α の本のリストである。
2. 『関西学院中学部図書館 利用案内』パンフレットの巻末に掲載されている。
3. このリストに載っている本はもちろん、リスト以外の本もどんどん読んでいく。
 - ・ 「10分間読書」の時間を活用。
 - ・ 通学での電車内、学校での休み時間、自宅での自由な時間など、時間を見つけて。
4. 本を読んだ記録を「読書カード」に書く。
5. 各学期のはじめに「読書カード」を提出する。
6. 返却された「読書カード」はしっかり保管しておくこと。(再チェックする場合あり)

C. 「10分間読書」

1. 実施時間は、読書科の授業および国語科の授業のはじめ 10 分間。
2. 全員、授業開始前に本（マンガ・雑誌以外）を 1 冊用意しておく。
 - ・ 「推薦図書リスト」を参考にする。
 - ・ 事前に中学部図書館から借りるか、自宅から持ってくる。
3. 全員、授業開始のチャイムが鳴り次第、静かに本を読み始める（10 分間）。
4. 先生の合図で終了。挨拶、出欠、忘れ物のチェックを行って、授業に入る。
5. 時間を見つけて、本を読んだ記録を「読書カード」に書く。

D. 記録（書誌情報）のとりかた

1. 本の記録は、書誌情報がすべて記されている奥付を見る。書誌情報の基本事項は次の通り。
 - a. 著者名
 - ・ 個人ではなく団体名の場合もある
 - ・ 3人以上いる場合は、2人分記入し、そのあとに「ほか」と記す
例：関学太郎、三日月花子ほか
 - ・ 翻訳者がいる場合は（訳）と付け、著者名とともに記す
例：W.R.ランバス、関学三郎（訳）
 - ・ 編集者がいる場合は（編）、監修者がいる場合は（監）と、氏名のあとに付け加える
例：関西学院大学鉄道研究会（編）

b. 書名 (タイトル)

- ・ 二重かぎかっこ『 』で囲むことが多い
- ・ 副書名 (サブタイトル) があれば、書名と副書名を「―」で結ぶ
例:『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?―身近な疑問からはじめる会計学』

c. 巻数

d. 出版者 (出版社、発行所)

- ・ 「株式会社」「有限会社」などは不要。
- ・ 印刷会社、製本会社ではない。
例: 岩波書店、集英社、マガジンハウス、ベースボールマガジン社

e. 出版年

- ・ 現在の本の内容になった年 (一番新しい版になった年) を採用する
 - ・ 「2 版」、「新版」など→刷版を変えて印刷すること
 - ・ 「2 刷」、「新刷」など→同じ刷版で印刷すること
刷版=本を印刷する「はんこ」のようなもの
- ・ 西暦で記入する
 - ・ 昭和年は、1900 と 25 を足すと西暦年になる
例: 昭和 50 年→1975 年
 - ・ 平成年は、1900 と 88 を足すと西暦年になる
例: 平成 7 年→1995 年

f. ページ (頁)

- ・ 「Page」の略であることを示す「P.」のあとに数字を入れる

2. 奥付の例

自由と規律	
定価はカバーに表示してあります	岩波新書(青版)17
1949年11月5日 第1刷発行◎	
1963年6月20日 第25刷改版発行	
1993年4月5日 第70刷発行	
著者	いけだ きよし 池田 潔
発行者	安江良介
発行所	株式会社 岩波書店 〒101-02 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
電話	案内 03-5210-4000 営業部 03-5210-4111 新書編集部 03-5210-4054
印刷・理想社	カバー・半七印刷 製本・田中製本
ISBN4-00-412141-8	Printed in Japan

3. 「読書カード」の例


関西学院中学部 読書カード

2014 年度 2 学期分

1 年 A 組 42 番 氏名 三日月光

1学期分は2学期始業式に提出。少なくともBのカードは8枚以上。そのうち半分は「推薦図書リスト」に入っている本から。

Aのカード
2枚中2枚の意味

2枚目ならば
11, 12……となる

2014 年度 2 学期 2 / 2 関西学院中学部 読書カードA

No.	書名	著者・訳者	リスト番号	読始	読了	カード
11	トリツカレ男	いしいしんじ	4	読始 10月 5 日		
12	イワンのばか	トルストイ 金子幸彦(訳)	30	読始 10月 9 日	読了 10月 11 日	○
13	珈琲店タレーランの事件簿3	岡崎 琢磨	×	読始 10月 11 日	読了 10月 11 日	×
14	ギリシア神話を知ろうのついで	阿刀田 高	45	読始 10月 13 日	読了 10月 18 日	×
15	弱くて勝つ男-開成高校野球部	高橋 秀実	×	読始 10月 19 日	読了 10月 21 日	○
16	ランチのアッコちゃん	柚木 麻子	×	読始 10月 21 日	読了 10月 24 日	○
17	黒魔サタンが通る!! 10	石崎 洋司 藤田 香(訳)	×	読始 10月 24 日	読了 10月 25 日	○
18	福翁自伝	福沢 諭吉	181	読始 10月 25 日	読了 11月 8 日	○
19	おかしな図書館- コミュニティの核をめぐって	猪谷 千香	207	読始 11月 8 日	読了 11月 14 日	×
20	僕の明日を照らして	瀬尾 まいこ	233	読始 11月 14 日	読了 11月 17 日	○

「推薦図書リスト」に入っている本にはその番号を、入っていない本には×印を。

Bのカードを書いたものに○印、書いていないものに×印。

書誌情報をきっちり
と書く。書き方は
前ページを参照の
こと

Bのカードの裏面は
書いても書かなく
てもよい。

関西学院中学部 読書カードB

氏名 三日月光 リスト番号 30

書名 イワンのばか 巻 30

著者・訳者名 トルストイ, 金子幸彦(訳) 出版者名 岩波書店 出版年 2000

読始 2014年 10月 9 日 → 読了 2014年 10月 11 日

感想・意見 この本の中に入っている物語のほとんどは聖書に
由来している話だ。だから「ハムレット」と思えばなんとなく
わかる。著者は「カフカースのトリニ」とある。そのなかでも好き
なところは、コスティリンとゼーリンが森へ逃げ込んだところ。友を助
けた。でもこの本では二人もやられてしまう。思い悩んで
いるコスティリンの姿に、そこから人生の分岐点に何度も出会うだ
ろう自分の姿を重ね合わせた。あと、「人は何で生まれるか」は感
動的な話だ。ミイラの発見もまた自分の成長と重なる
ことがある。長題作の「イワンのばか」は以前にも
ある。不平不満を吐く。何事も他人の言うこと
料な気持ちで取り組めば、思いもよらない成果が得
てくる。

10行以上書ける
ようにしっかりと
読み込む。改
行はしない。

Bのカード
2学期始業式提出分：8枚以上
3学期始業式提出分：6枚以上
1学期始業式提出分：4枚以上

IV. 基本的なレポートのつくりかた



A. 目的

1. 自分をつかむため（自己表現、言語化）。
2. 他人に伝えるため（社会的に認められる形式）。
3. 人間が豊かな生活を送るために必要な、自らで問い、答え、伝える、そしてさらに問うサイクル（＝研究・学習）を体験的に得るため。

B. 体裁

1. **A4 のレポート用紙**を使用
 - ・ A サイズは国際規格、B サイズは日本独自規格
2. レポート用紙は**表面のみ**使用
 - ・ 裏面には何も書かない
3. 「**自分の手**」で作成する
 - a. プリントアウトしたもの（ワープロ、コピー、画像）、「機械の手」によるもの不可
 - b. 中学生段階では、「知の身体性」を重視
4. なるべく**ペン書き**で作成する
 - a. 容易に修正できる鉛筆書きは社会では通用しない
 - b. 慣れるまでは修正ペンや修正テープを使用しても構わない（正しくは修正印使用）
5. すべてのレポート用紙を束ね、上はしの部分 2 ヶ所をホチキスで留める

C. 内容

1. **表紙**（1 枚目、ページなし）
 - ・ テーマ、作成年月日、学年、組、番号、名前を記入
2. **目次**（2 枚目、1 ページ）
 - ・ 3.～6.の内容に沿うような目次を作成
3. **はじめに**（序論）（3 枚目、2 ページ）
 - a. テーマについて思うこと、感じること
 - b. テーマを選んだ動機や理由
 - c. テーマに答えるための学習・調査・研究の方法
 - d. その方法によって導き出されるレポートの仮説（要旨・結論）
4. **内容**（本論）（4 枚目以降、3 ページ以降）
 - a. 必ず**2 つ以上の参考資料を用いる**こと。偏りをさけるために、互いに意見が異なる参考資料がよい。
 - b. 客観的な事実と根拠ある意見だけを書く（自分の感想は「おわりに」に）
 - c. 絵や図や表などを入れても構わない。色を使っても構わない。矢印、箇条書きを活用しても構わない。他人が見たくなるような、読みたくなる、わかりやすいレポート作成を心がける。

5. おわりに (結論)

- a. レポートの仮説 (要旨・結論) (「はじめに」と比べて同じだったか、違ったか)
- b. テーマに関わる意見、考察、課題
- c. その他、感想

6. 参考資料

- a. このレポートを書くにあたって参考にした本、雑誌、話、ウェブサイトなどをすべて箇条書きにし、以下の定型を守る。第三者が追検索 (同じようにその資料を検索) できるように示す。

- 本の場合 著者名『書名』(出版社名、出版年)
例：和田萃『飛鳥—歴史と風土を歩く』(岩波書店、2003)
- 雑誌の場合 著者名『雑誌名』(出版社名、出版年)
例：リクルート『関西じゃらん』10月号(リクルート、2007)
- 話の場合 話し手の名前、話した場所、話した年月日
例：安田栄三、関西学院中学部1B教室、2017年5月1日
- ウェブサイトの場合 サイト作成者「サイト名」(URL) 確認年月日
例：明日香村「明日香村公式サイト」(<http://www.asukamura.jp/>)2017年9月1日確認

※作成者が不明なサイト、作成者のハンドルネーム (あだ名) しか分からないようなサイトを参考資料にしてはならない

※「ウィキペディア」や「はてなキーワード」は、自由参加型のサイトであるため、情報の精度・信憑性は必ずしも保証されない。よって、レポートや論文の引用元としては不適切である

- b. 先述の通り、2 つ以上の参考資料を列挙すること

D. 先輩のレポート (例)

The image shows four overlapping pages of a student report. The first page is the title page with the title 'アレクサンドロス大王とアレクサンドリア図書館について' (About Alexander the Great and the Library of Alexandria) and the date '作成年月日: 2007年5月1日'. The second page is the '目次' (Table of Contents) listing sections like 'はじめに', '機序理由', and '参考資料'. The third page is the 'はじめに' (Introduction) section, where the student expresses their interest in the library and describes their research method. The fourth page is the '参考資料' (References) section, listing sources such as '大辞林' and '国際大百科'.

V. これまでの読書生活をふりかえる



A. 目的

1. これまでの読書生活を振り返り、現時点での読書のレベルを確認するため
2. **B6 カード**に慣れるため
3. 中学部 3 年間の読書生活による成長を卒業時に実感するため（卒業時に同じ演習を行い、今回の演習課題と見比べる）

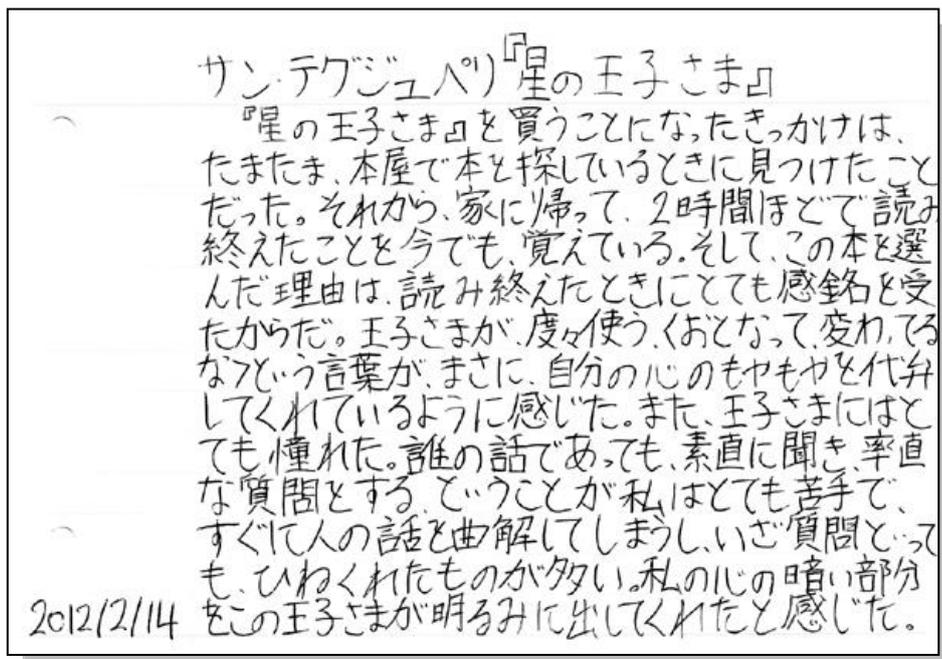
B. 演習

1. 内容

- ・ 中学部**入学以前に読んだ本**のなかで、もっとも心に残っている本を 1 冊取り上げ、なぜその本がもっとも心に残っているかをカード 1 枚で説明する。

2. カードの書き方

- a. カードの上の部分には、あなたが中学部入学以前に読んだ本のなかで、もっとも心に残っている本の、著者名と書名を記入する。書名は『 』でくくる。記憶の範囲でよい
例：宮沢賢治『銀河鉄道の夜』
- b. カードの左側の下の部分には、このカードを作成した年月日を記入する。
- c. カードの中心部には、なぜその本が最も印象に残っているかを説明する。最低でも 10 行以上は書く。改行はしない。
- d. 裏面に学年、組、番号、氏名を記入する。
- e. 先輩のカード（例）



VI. 図書館とは何か



A series of horizontal lines for writing, starting from a thick black line under the title and continuing down the page.

VII. 図書館の自由



A. 図書館を利用する側の「自由」

「 」

1. 国立国会図書館法の前文にある言葉で、国立国会図書館の設立理念とも言うべき言葉。国立国会図書館の壁に刻まれている。
2. 『 』の「 」による福音書の言葉が、その由来と言われている。
3. 図書館で知識・情報（真理）を入手することは、民主主義の平和社会（自由）をつくりあげることにつながる。



B. 図書館を利用される側の「自由」

「 」に関する宣言」（日本図書館協会）

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することをもっとも重要な任務とする。（中略）この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

- 第1 図書館は資料収集の自由を有する （中略）
- 第2 図書館は資料提供の自由を有する （中略）
- 第3 図書館は利用者の秘密を守る （中略）
- 第4 図書館はすべての検閲に反対する （中略）

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。（下略）

C. インドの図書館学者 の図書館学五原則（The five laws of library science）

1. 図書は利用するためのものである。 （Books are for use.）
2. いずれの読者にもすべて、その人の本を。 （Every reader his or her book.）
3. いずれの図書にもすべて、その読者を。 （Every book its reader.）
4. 読者の時間を節約せよ。 （Save the time of the reader.）
5. 図書館は成長する有機体である。 （The library is a growing organism.）

その他の公共図書館

B. 学校図書館

C. 大学図書館

D. 専門図書館

E. その他の図書館

X. 公共図書館見学レポート



A. 目的

1. 基本的なレポートの書き方を体得するため
2. 4つに大別される図書館の1つである**公共図書館**についての理解を深めるため

B. 見学

1. 夏休みに、近くの公共図書館へ見学、調査へ行く。
2. できれば、詳しいところ、わからないところを、公共図書館の**司書**さんに聞く。
 - ・ 夏休み中は特に利用者が多い。司書さんが忙しそうであれば、質問を諦めること。
3. 忙しい最中、司書さんにお話をお伺いするわけだから、素直な感謝の気持ちを忘れない。

C. 体裁

1. **A4 のレポート用紙**を使用する。
2. レポート用紙は**表面のみ**使用する。
 - ・ 裏面には何も書かない。
3. 必ず「**自分の手**」で作成する。
 - ・ プリントアウトしたもの（ワープロ、コピー、画像）など、「機械の手」によるものは不可。
4. なるべく**ペン書き**で作成する。
 - ・ 修正ペンやテープを使用しても構わない。
5. すべてのレポート用紙を束ね、上はしの部分 2ヶ所をホチキスでとめる。

D. 演習

1. **表紙**（1枚目、ページなし）
 - ・ テーマ（**□□立□□図書館見学レポート**）、レポートの作成年月日、学年、組、番号、名前を記入する
2. **目次**（2枚目、1ページ）
 - ・ 3.~6.の内容に沿うような目次を作成する。
3. **はじめに**（序論）（3枚目、2ページ）
 - ・ 公共図書館を見学する前の、少ない予備知識やイメージから、予想、期待、不安などの自分の感想や考えを自由に表現する。
4. **内容**（本論）（4枚目以降、3ページ以降）
 - a. 司書さんに聞いて学んだこと、実際に見学して学んだこと、資料で学んだことを、わかりやすく、くわしく自由に表現する。
 - b. 開館日時、施設、貸出・返却、蔵書、分類、目録、郷土資料、イベント、特色などを中心にレポートする（とくにデータは有用）。
 - c. 写真（撮影の際には必ず許可を取ること）や絵や図や表などを入れるのもよい。

d. この部分には事実だけを書く（自分の感想や考えは5の「おわりに」のところで）。

5. おわりに（結論）

- ・ 公共図書館を実際に見て、聞いて、調べて、学んだことによる、自分の感想や考えを、自由に表現する。

E. 参考資料

- このレポートを書くにあたって参考にした本、雑誌、プリント、話、ウェブサイトなどをすべて**箇条書き**にして書く。
 - 本の場合 著者名『書名』（出版社名、出版年）
 - 雑誌の場合 著者名『雑誌名』（出版社名、出版年）
 - 話の場合 話し手の名前、話した場所、話した年月日
 - ウェブサイトの場合 サイト作成者「サイト名」（URL）確認年月日
 - ・ 作成者が不明なサイト、作成者のハンドルネーム（あだ名）しか分からないようなサイトを参考資料にしてはならない
 - ・ 「ウィキペディア」や「はてなキーワード」など不特定多数のユーザーが編集可能なサイトは、参考資料として不適切である
- 図書館日より、新着案内、開館カレンダーなど、**実際に見学して入手した「証拠」**をつけること。

F. 専門図書館見学レポートの作成（任意）

- ・ 形式などは公共図書館見学レポートと同様

G. 先輩のレポート（例）

The image shows three overlapping pages of a handwritten report from Kwansei Gakuin Junior High School. The first page is a table of contents (目次) with the following items:

- はじめに 2
- 尼崎市立中央図書館の利用案内 4
- 尼崎市立中央図書館のありみ 6
- 尼崎市立中央図書館の設備 8
- 尼崎市立中央図書館の分類 11
- 尼崎市立中央図書館のフロアガイド 13
- 尼崎市立中央図書館のその他 15
- 尼崎市立中央図書館の特徴 20
- おわりに 22
- 参考資料 24

The second page is the main text, starting with the title '図書館の特徴' (Library Features) and the word 'おわりに' (Conclusion). The text discusses the library's location, history, and services, mentioning '一般開架室' (general open shelves) and '専門図書館や宝塚市' (specialized libraries and Takatsuki City). The third page is the conclusion, starting with 'おわりに' and '図書館を見学してみて、用できると思った。' (After visiting the library, I thought it would be useful.) and ends with 'た。今回いろいろ' (I did. This time, I did various things).

XII. 図書館の分類



A. 分類とは何か

B. 分類の必要性

C. 分類の種類

1. 日本十進分類法 (NDC) 第 1 次区分表 (類目表)

0 総記	General Works
1 哲学・宗教	Philosophy & Religion
2 歴史	History
3 社会科学	Social Science
4 自然科学	Natural Science
5 技術	Technology
6 産業	Industry
7 芸術	The Arts
8 言語	Language
9 文学	Literature

2. 日本十進分類法 (NDC) 第 2 次区分表 (綱目表)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 00 総記 | 50 技術. 工学 |
| 01 図書館. 図書館学 | 51 建設工学. 土木工学 |
| 02 図書. 書誌学 | 52 建築学 |
| 03 百科事典 | 53 機械工学. 原子力工学 |
| 04 一般論文集. 一般講演集 | 54 電気工学. 電子工学 |
| 05 逐次刊行物 | 55 海洋工学. 船舶工学. 兵器 |
| 06 団体 | 56 金属工学. 鉱山工学 |
| 07 ジャーナリズム. 新聞 | 57 化学工業 |
| 08 叢書. 全集. 選集 | 58 製造工業 |
| 09+ 貴重書. 郷土資料. その他の特別コレクション | 59 家政学. 生活科学 |
| 10 哲学 | 60 産業 |
| 11 哲学各論 | 61 農業 |
| 12 東洋思想 | 62 園芸 |
| 13 西洋哲学 | 63 蚕糸業 |
| 14 心理学 | 64 畜産業. 獣医学 |
| 15 倫理学. 道徳 | 65 林業 |
| 16 宗教 | 66 水産業 |
| 17 神道 | 67 商業 |
| 18 仏教 | 68 運輸. 交通 |
| 19 キリスト教 | 69 通信事業 |
| 20 歴史 | 70 芸術. 美術 |
| 21 日本史 | 71 彫刻 |
| 22 アジア史. 東洋史 | 72 絵画. 書道 |
| 23 ヨーロッパ史. 西洋史 | 73 版画 |
| 24 アフリカ史 | 74 写真. 印刷 |
| 25 北アメリカ史 | 75 工芸 |
| 26 南アメリカ史 | 76 音楽. 舞踊 |
| 27 オセアニア史. 両極地方史 | 77 演劇. 映画 |
| 28 伝記 | 78 スポーツ. 体育 |
| 29 地理. 地誌. 紀行 | 79 諸芸. 娯楽 |
| 30 社会科学 | 80 言語 |
| 31 政治 | 81 日本語 |
| 32 法律 | 82 中国語. その他の東洋の諸言語 |
| 33 経済 | 83 英語 |
| 34 財政 | 84 ドイツ語 |
| 35 統計 | 85 フランス語 |
| 36 社会 | 86 スペイン語 |
| 37 教育 | 87 イタリア語 |
| 38 風俗習慣. 民俗学. 民族学 | 88 ロシア語 |
| 39 国防. 軍事 | 89 その他の諸言語 |
| 40 自然科学 | 90 文学 |
| 41 数学 | 91 日本文学 |
| 42 物理学 | 92 中国文学. その他の東洋文学 |
| 43 化学 | 93 英米文学 |
| 44 天文学. 宇宙科学 | 94 ドイツ文学 |
| 45 地球科学. 地学 | 95 フランス文学 |
| 46 生物科学. 一般生物学 | 96 スペイン文学 |
| 47 植物学 | 97 イタリア文学 |
| 48 動物学 | 98 ロシア・ソヴェエト文学 |
| 49 医学. 薬学 | 99 その他の諸文学 |

3. 日本十進分類法 (NDC) 第3次区分表 (要目表)

日本十進分類法

第3次区分表

000	総記	100	哲学
001	日本の雑誌	101	哲学理論
002	中国語	102	哲学史
003	英語	103	参考図書 [レファレンスブック]
004	ドイツ語	104	論文集, 評論集, 講演集
005	フランス語	105	逐次刊行物
006	スペイン語	106	団体
007	イタリア語	107	研究法, 指導法, 哲学教育
008	ロシア語	108	叢書, 全集, 選集
009	一般年鑑	109	
010	図書館, 図書館学	110	哲学各論
011	図書館政策, 図書館行政	111	形而上学, 存在論
012	図書館建築, 図書館設備	112	自然哲学, 宇宙論
013	図書館管理	113	人自然観, 世界観
014	資料の収集, 資料の整理, 資料の保管	114	人間学
015	図書館奉仕, 図書館活動	115	認識論
016	各種の図書館	116	論理学, 弁証法 [弁証法的論理学], 方法論
017	学校図書館	117	価値哲学
018	専門図書館	118	文化哲学, 技術哲学
019	読書, 読書法	[119]	美学 →701.1
020	図書, 書誌学	120	東洋思想
021	著作, 編集	121	日本思想
022	写本, 刊本, 造本	122	中国思想, 中国哲学
023	出版	123	経書
024	図書の販売	124	先秦思想, 諸子百家
025	一般書誌, 全国書誌	125	中世思想, 近代思想
026	種書目録, 善本目録	126	インド哲学, パラモン教
027	特種目録	127	
028	選定図書目録, 参考図書目録	128	その他のアジア・アラブ哲学
029	蔵書目録, 総合目録	129	
030	百科事典	130	西洋哲学
031	日本語	131	古代哲学
032	中国語	132	中世哲学
033	英語	133	近代哲学
034	ドイツ語	134	トイツ・オーストリア哲学
035	フランス語	135	フランス・オランダ哲学
036	スペイン語	136	スベイン・ポルトガル哲学
037	イタリア語	137	イタリア哲学
038	ロシア語	138	ロシア哲学
039	用語索引<一般>	139	その他の哲学
040	一般論文集, 一般講演集	140	心理学
041	日本語	141	普通心理学, 心理各論
042	中国語	142	
043	英語	143	発達心理学
044	ドイツ語	144	
045	フランス語	145	異常心理学, 精神分析学
046	スペイン語	146	臨床心理学, 精神研究
047	イタリア語	147	超心理学, 心霊研究
048	ロシア語	148	相法, 易占
049	雑著	[149]	応用心理学
150	倫理学, 道徳	150	倫理学, 道徳
151	倫理各論	151	倫理各論
152	家庭倫理, 性倫理	152	職業倫理, 性倫理
153	職業倫理	153	社会倫理 [社会道徳]
154	社会倫理	154	国体論, 詔勅
155	国体論, 詔勅	155	武士道
156	武士道	156	報徳教, 石門心学
157	報徳教, 石門心学	157	その他の特定主題
158	その他の特定主題	158	人生訓, 教訓
159	人生訓, 教訓	159	
160	宗教	160	宗教
161	宗教学, 宗教思想	161	宗教学, 宗教思想
162	宗教史, 事情	162	原始宗教, 宗敎民族学
163	原始宗教, 宗敎民族学	163	神話, 神話学
164	神話, 神話学	164	比較宗教
165	比較宗教	165	道敎
166	道敎	166	イスラーム
167	イスラーム	167	ヒンズー教, ジャイナ教
168	ヒンズー教, ジャイナ教	168	その他の宗教, 新興宗教
169	その他の宗教, 新興宗教	169	
170	神道	170	神道
171	神道思想, 神道説	171	神道思想, 神道説
172	神祇, 神道史	172	神祇, 神道史
173	神典	173	信仰録, 説教集
174	信仰録, 説教集	174	神社, 神職
175	神社, 神職	175	祭祀
176	祭祀	176	布教, 伝道
177	布教, 伝道	177	各教派, 教派神道
178	各教派, 教派神道	178	
179		179	
180	仏教	180	仏教
181	仏教教理, 仏教哲学	181	仏教教理, 仏教哲学
182	仏教史	182	法話, 説教集
183	法話, 説教集	183	寺院, 僧職
184	寺院, 僧職	184	仏会
185	仏会	185	布教, 伝道
186	布教, 伝道	186	各宗
187	各宗	187	
188		188	
189		189	
190	キリスト教	190	キリスト教
191	教義, キリスト教神学	191	教義, キリスト教神学
192	キリスト教史, 迫害史	192	キリスト教史, 迫害史
193	聖書	193	信仰録, 説教集
194	信仰録, 説教集	194	教会, 聖職
195	教会, 聖職	195	典礼, 祭式, 礼拝
196	典礼, 祭式, 礼拝	196	布教, 伝道
197	布教, 伝道	197	各教派, 教会史
198	各教派, 教会史	198	
199	ユダヤ教	199	

第3次区分表

日本十進分類法

200	歴史		350	統計	
201	歴史学		351	日本	
202	歴史補助学		352	アジア	
203	参考図書 [レファレンスブック]		353	ヨーロッパ	
204	論文集、評論集、講演集		354	アフリカ	
205	逐次刊行物		355	北アメリカ	
206	団体		356	南アメリカ	
207	研究法、指導法、歴史教育		357	オセアニア、両極地方	
208	叢書、全集、選集		358	人口統計、国勢調査	
209	世界史、文化史		[359]	各種の統計書	
210	日本史		360	社会	
211	北海道地方		361	社会学	
212	東北地方		362	社会学、社会史、社会体制	
213	関東地方		363	社会学	
214	北陸地方		364	社会保障	
215	中部地方		365	生活・消費者問題	
216	近畿地方		366	労働経済、労働問題	
217	中国地方		367	家族問題、男性・女性問題、老人問題	
218	四国地方		368	社会病理	
219	九州地方		369	社会福祉	
220	アジア史、東洋史		370	教育	
221	朝鮮		371	教育学、教育思想	
222	中国		372	教育史、事情	
223	東南アジア		373	教育政策、教育制度、教育行政	
224	インドネシア		374	学校経営、管理、学校保健	
225	インド		375	教育課程、学習指導、教科別教育	
[226]	西南アジア、中東 [近東]		376	幼児・初等・中等教育	
227*	西南アジア、中東 [近東]		377	大学、高等・専門教育、学術行政	
[228]	アラブ諸国 →227		378	障害児教育	
229	アジア・ロシア		379	社会教育	
230	ヨーロッパ史、西洋史		380	風俗習慣、民俗学、民族学	
231	古代ギリシア		381	風俗史、民俗誌、民族誌	
232	古代ローマ		382	衣食住の習俗	
233	イギリス、英国		383	社会・家庭生活の習俗	
234	ドイツ、中欧		384	通過儀礼、冠婚葬祭	
235	フランス		385	年中行事、祭礼	
236	スペイン [イスパニア]		386	民間信仰、迷信 [俗信]	
237	イタリア		387	伝説、民話 [昔話]	
238	ロシア [ソビエト連邦、独立国家共同体]		388	民族学、文化人類学	
239	バルカン諸国		389		
240	アフリカ史		390	国防、軍事	
241	北アフリカ		391	戦争、戦略、戦術	
242	エジプト		392	国防史・事情、軍事史・事情	
243	バーバリ諸国		393	国防政策、行政・法令	
244	西アフリカ		394	軍事医学、兵食	
245	東アフリカ		395	軍事施設、軍需品	
246			396	陸軍	
247			397	海軍	
248	南アフリカ		398	空軍	
249	インド洋の 아프리카諸島		399	古代兵法、軍事	
250	北アメリカ史		300	社会科学	
251	カナダ		301	理論、方法論	
252			302	政治・経済・社会・文化事情	
253	アメリカ合衆国		303	参考図書 [レファレンスブック]	
254			304	論文集、評論集、講演集	
255	ラテン・アメリカ [中南米]		305	逐次刊行物	
256	メキシコ		306	団体	
257	中央アメリカ [中米諸国]		307	研究法、指導法、社会科学教育	
258			308	叢書、全集、選集	
259	西インド諸島		309	社会思想	
260	南アメリカ史		310	政治	
261	北部諸国 [カリブ沿海諸国]		311	政治学、政治思想	
262	ブラジル		312	政治史・事情	
263	パラグアイ		313	国家の形態、政治体制	
264	ウルグアイ		314	議会	
265	アルゼンチン		315	政党、政治結社	
266	チリ		316	国家と個人・宗教・民族	
267	ボリビア		317	行政	
268	ペルー		318	地方自治、地方行政	
269			319	外交、国際問題	
270	オセアニア史、両極地方史		320	法律	
271	オーストラリア		321	法学	
272	ニューゼaland		322	法制史	
273	メラネシア		323	憲法	
274	ミクロネシア		324	民法	
275	ポリネシア		325	商法	
276	ハワイ		326	刑法	
277	両極地方		327	司法、訴訟手続法	
278	北極、北極地方		[328]	諸法	
279	南極、南極地方		329	国際法	
280	伝記		330	経済	
281	日本		331	経済学、経済思想	
282	アジア		332	経済史・事情、経済体制	
283	ヨーロッパ		333	経済政策、国際経済	
284	アフリカ		334	人口、土地、資源	
285	北アメリカ		335	企業、経営	
286	南アメリカ		336	経営管理	
287	オセアニア、両極地方		337	貨幣、通貨	
288	系譜、家史、皇室		338	金融、銀行、信託	
289	個人伝記		339	保険	
290	地理、地誌、紀行		340	財政	
291	日本		341	財政学、財政思想	
292	アジア		342	財政史・事情	
293	ヨーロッパ		343	財政政策、財務行政	
294	アフリカ		344	予算、決算	
295	北アメリカ		345	租税	
296	南アメリカ		346	公債、国債	
297	オセアニア、両極地方		347	専売、国有財産	
298			348	地方財政	
299	海洋		349		

日本十進分類法

第3次区分表

400	自然科学	450	地球科学、地学	500	技術、工学	550	海洋工学、船舶工学
401	科学理論、科学哲学	451	気象学	501	工業基礎学	551	理論造船学
402	科学史・事情	452	海洋学	502	技術史、工学史	552	船体構造、材料・施工
403	参考図書 [レファレンスブック]	453	地震学	503	参考文献 [レファレンスブック]	553	船体構築、船舶設備
404	論文集、評論集、講演集	454	地形学	504	論文集、評論集、講演集	554	船用機関 [造機]
405	逐次刊行物	455	地質学	505	逐次刊行物	555	船舶修理、保守
406	団体	456	地史学、層位学	506	団体	556	各種の船舶・艦艇
407	研究法、指導法、科学教育	457	古生物学、化石	507	研究法、指導法、技術教育	557	航海、航海学
408	叢書、全集、選集	458	岩石学	508	叢書、全集、選集	558	海洋開発
409+	科学技術政策、科学技術行政	459	鉱物学	509	工業、工業経済	559	兵器、軍事工学
410	数学	460	生物科学、一般生物学	510	建設工学、土木工学	560	金属工学、鉱山工学
411	代数学	461	理論生物学、生命論	511	土木力学、建設材料	561	採鉱、選鉱
412	数論 [整数論]	462	生物地理、生物誌	512	測量	562	各種の金属鉱床・採掘
413	解析学	463	細胞学	513	土木設計・施工法	563	冶金、合金
414	幾何学	464	生化学	514	道路工学	564	鉄鋼
415	位相数学	465	微生物学	515	橋梁工学	565	非鉄金属
416		466		516	鉄道工学	566	金属加工、製造冶金
417	確率論、数理統計学	467	遺伝学	517	河川工学	567	石炭
418	計算法	468	生態学	518	河川工学、都市工学	568	石油
419	和算、中国算法	469	人類学	519	公害、環境工学	569	非金属鉱物、土石採取業
420	物理学	470	植物学	520	建築学	570	化学工業
421	理論物理学	471	一般植物学	521	日本の建築	571	化学工学、化学機器
422		472	植物地理、植物誌	522	東洋の建築、アジアの建築	572	電気化学工業、セラミックス工業
423	力学	473	葉状植物	523	西洋の建築、その他の様式の建築	573	工業
424	振動学、音響学	474	藻類、菌類	524	建築構造	574	化学薬品
425	光学	475	コケ植物 [蘚苔類]	525	建築計画・施工	575	燃料、爆発物
426	熱学	476	シダ植物	526	各種の建築	576	油脂類
427	電磁気学	477	種子植物	527	住宅建築	577	染料
428	物性物理学	478	裸子植物	528	建築設備、設備工学	578	高分子化学工業
429	原子物理学	479	被子植物	529	建築意匠・装飾	579	その他の化学工業
430	化学	480	動物学	530	機械工学	580	製造工業
431	物理化学、理論化学	481	一般動物学	531	機械力学・材料・設計	581	金属製品
432	実験化学 [化学実験法]	482	動物地理、動物誌	532	機械工作、工作機械	582	事務機器、家庭機器、楽器
433	分析化学 [化学分析]	483	無脊椎動物	533	熱機関、熱工学	583	木工業、木製品
434	合成化学 [化学合成]	484	軟体動物、貝類学	534	流体機械、流体力学	584	皮革工業、皮革製品
435	無機化学	485	節足動物	535	精密機器、光学機器	585	ハルブ、製紙工業
436	有機化学	486	昆蟲類	536	精密機器、光学機器	586	繊維工学
437	有機化学	487	脊椎動物	537	運輸工学、車輛、運搬機械	587	染色加工、染色業
438	環式化合物の化学	488	鳥類	538	自動車工学	588	食品工業
439	天然物質の化学	489	哺乳類	539	航空宇宙工学	589	その他の雑工業
440	天文学、宇宙科学	490	医学	540	電気工学	590	家政学、生活科学
441	理論天文学、観測天文学	491	基礎医学	541	電気回路・計測・材料	591	家庭経済・経営
442	実地天文学、天体観測法	492	臨床医学、診断・治療	542	電気機器	592	家庭工学
443	恒星、恒星天文学	493	内科学	543	発電	593	衣服、裁縫
444	太陽、太陽物理学	494	外科学	544	送電、変電、配電	594	手芸
445	惑星、衛星	495	婦人科学、産科学	545	電灯、照明、電熱	595	美容、美容
446	月	496	眼科学、耳鼻咽喉科学	546	電気鉄道	596	食品、料理
447	彗星、流星	497	歯科学	547	通信工学、電気通信	597	住居、家具調度
448	地球、天文地理学	498	衛生学、公衆衛生、予防医学	548	情報工学	598	家庭衛生
449	時法、曆学	499	薬学	549	電子工学	599	育児

第3次区分表

日本十進分類法

600 産業	産業政策・行政、総合開発	700 芸術、美術	芸術理論、美学	750 工芸	陶磁工芸
601	産業史・事情、物産誌	701	芸術史、美術史	751	漆工芸
602	参考図書 [レファレンスブック]	702	参考文献、評論集、講演集	752	染織工芸
603	論文集、評論集、講演集	704	逐次刊行物	753	木竹工芸
604	団体	705	研究法、指導法、芸術教育	755	宝石・牙角・皮革工芸
605	研究法、指導法、産業教育	706	叢書、全集、選集	756	金工芸
606	度量衡、計量法	707	芸術政策、文化財	757	アザイン、装飾美術
607		708		758	美術家具
608		709		759	人形、玩具
609					
610 農業		760 音楽	音楽の一般理論、音楽学		
611	農業経済	761	音楽史、各国の音楽		
612	農業史・事情	762	楽器、器楽		
613	農業基礎学	763	器楽合奏		
614	農業工学	764	宗教音楽、聖楽		
615	作物栽培、作物学	765	劇音楽		
616	食用作物	766	声楽		
617	工業作物	767	邦楽		
618	繊維作物	768	舞踊、ハレ工		
619	農産物製造・加工	769			
620 園芸		770 演劇	劇場、演出、演技		
621	園芸経済、行政、経営	771	演劇史、各国の演劇		
622	園芸史・事情	772	能楽、狂言		
623	園芸植物学、病虫害	773	歌舞伎		
624	温室、温床、園芸用具	774	各種の演劇		
625	果樹園芸	775			
626	蔬菜園芸	776	人形劇		
627	花卉園芸 [草花]	777	映画		
628	園芸利用	778	大衆演芸		
629	造園	779			
630 蚕糸業		780 スポーツ、体育	体操、遊戯		
631	蚕糸経済、行政、経営	781	陸上競技		
632	蚕糸業史・事情	782	球技		
633	蚕学、蚕業基礎学	783	水上競技		
634	蚕種	784	戸外レクリエーション		
635	飼育法	785	釣魚、遊猟		
636	くわ、栽桑	786	相撲、拳闘、競馬		
637	蚕室、蚕具	787			
638	まゆ	788			
639	製糸、生糸、蚕糸利用	789			
640 畜産業		790 諸芸、娯楽	茶道		
641	畜産経済、行政、経営	791	香道		
642	畜産史・事情	792	花道		
643	家畜の繁殖、家畜飼料	793	撞球		
644	家畜の管理、畜舎、用具	794	囲碁		
645	家畜・畜産動物各論	795	将棋		
646	家畜各論、飼鳥	796	射撃ゲーム		
[647]	みつばち、昆虫 →646.9	797	室内娯楽		
648	畜産製造、畜産物	798	ダンス		
649	獣医学、比較医学	799			

日本十進分類法

第3次区分表

800	言語学	850	フランス語	900	文学	950	フランス文学
801	言語史	851	音韻、文字	901	文学理論・作法	951	詩
802	言語史 [レファレンスブック]	852	語源、意味	902	文学史、文学思想史	952	戯曲
803	参考文献集、講演集	853	辞典	903	参考文献集 [レファレンスブック]	953	小説
804	論文集、評論集、講演集	854	語彙	904	論文集、評論集、講演集	954	評論
805	逐次刊行物	855	文法、文体、作文	905	逐次刊行物	955	エッセイ、随筆
806	団体	856	文法、文体、作文	906	団体	956	日記、書簡、紀行
807	研究法、指導法、言語教育	857	読本、解釈、会話	907	研究法、指導法、文学教育	957	記録、手記、ルポルタージュ
808	叢書、全集、選集	858	方言、訛語	908	叢書、全集、選集	958	戯言、アフォリズム、寸言
809	言語生活	859	プロヴァンスタンス語	909	児童文学研究	959	作品集
810	日本語	860	スペイン語	910	日本文学	960	スペイン文学
811	音韻、文字	861	音韻、文字	911	詩歌	961	詩
812	語源、意味	862	語源、意味	912	戯曲	962	戯曲
813	辞典	863	辞典	913	小説	963	小説
814	語彙	864	語彙	914	評論	964	評論
815	文法、文体、作文	865	文法、文体、作文	915	日記	965	日記
816	文章、解釈、会話	866	文章、文体、作文	916	記録、手記、ルポルタージュ	966	記録、手記、ルポルタージュ
817	読本、解釈、会話	867	読本、解釈、会話	917	戯言、アフォリズム、寸言	967	戯言、アフォリズム、寸言
818	方言、訛語	868	方言、訛語	918	作品集	968	作品集
819	ポルトガル語	869	ポルトガル語	919	漢詩文、日本漢文学	969	ポルトガル文学
820	中国語	870	イタリア語	920	中国文学	970	イタリア文学
821	音韻、文字	871	音韻、文字	921	詩歌、韻文、詩文	971	詩
822	語源、意味	872	語源、意味	922	戯曲	972	戯曲
823	辞典	873	辞典	923	小説	973	小説
824	語彙	874	語彙	924	評論	974	評論
825	文法、文体、作文	875	文法、文体、作文	925	日記	975	日記
826	文章、解釈、会話	876	文章、文体、作文	926	記録、手記、ルポルタージュ	976	記録、手記、ルポルタージュ
827	読本、解釈、会話	877	読本、解釈、会話	927	戯言、アフォリズム、寸言	977	戯言、アフォリズム、寸言
828	方言、訛語	878	方言、訛語	928	作品集	978	作品集
829	その他の東洋の諸言語	879	その他のロマンス諸語	929	その他の東洋文学	979	その他のロマンス文学
830	英語	880	ロシア語	930	英米文学	980	ロシア・ソヴィエト文学
831	音韻、文字	881	音韻、文字	931	詩	981	詩
832	語源、意味	882	語源、意味	932	戯曲	982	戯曲
833	辞典	883	辞典	933	小説	983	小説
834	語彙	884	語彙	934	評論	984	評論
835	文法、文体、作文	885	文法、文体、作文	935	日記	985	日記
836	文章、解釈、会話	886	文章、文体、作文	936	記録、手記、ルポルタージュ	986	記録、手記、ルポルタージュ
837	読本、解釈、会話	887	読本、解釈、会話	937	戯言、アフォリズム、寸言	987	戯言、アフォリズム、寸言
838	方言、訛語	888	方言、訛語	938	作品集	988	作品集
839	その他のスラヴ諸語	889	その他のスラヴ諸語	[939]	アメリカ文学 →930/938	989	その他のスラヴ文学
840	ドイツ語	890	その他の諸言語	940	ドイツ文学	990	その他の諸文学
841	音韻、文字	891	ギリシア語	941	詩	991	ギリシア文学
842	語源、意味	892	ラテン語	942	戯曲	992	ラテン文学
843	辞典	893	その他のヨーロッパの諸言語	943	小説	993	その他のヨーロッパ文学
844	語彙	894	アメリカの諸言語	944	評論	994	アメリカ文学
845	文法、文体、作文	895	アメリカの諸言語	945	日記	995	アメリカ先住民の文学
846	文章、解釈、会話	896	オーストラリアの諸言語	946	記録、手記、ルポルタージュ	996	オーストラリア先住民の文学
847	読本、解釈、会話	897	方言、訛語	947	戯言、アフォリズム、寸言	997	オーストラリア先住民の文学
848	その他のゲルマン諸語	898	国際語 [人工語]	948	作品集	998	国際語による文学
849	その他のゲルマン諸語	899	国際語 [人工語]	949	その他のゲルマン文学	999	国際語による文学

192 キリスト教史、追書史 History and conditions of Christianity

* 地理区分

- .8 キリストの生涯 [イエス伝] : 誕生, 東方の三博士, 割礼, 洗礼, 断食, 誘惑, 奇跡, 山上の垂訓, 変貌, 最後の晩餐, 受難, 十字架, 復活, 昇天, 使徒 → : 191.2
- .85⁺ 聖母マリア, 無垢受胎
- .88 聖職者 < 列伝 >

193 聖 書 Bible

- .01 聖書神学
- .02 聖書史, 考古学 (聖書), 地理 (聖書)
- .09 聖書語学, 聖書解釈学, 聖書の注釈
- .1 旧約聖書
- .2 歴 史 書
- .21 モーゼの五書, 律法書, ペンタテューク
- .211 創 世 記
- .212 出エジプト記
- .213 レ ビ 記
- .214 民数記略
- .215 申 命 記
- .216 十 誡
- .22 ヨシヤ記
- .23 士師記, ルツ記
- .24 サムエル記
- .25 列 王 記
- .26 歴 代 志
- .27 エズラ記
- .28 ネヘミア記
- .29 エステル記
- .3 詩 歌 書
- .32 ヨ ブ 記
- .33 詩 篇
- .34 箴 言
- .35 伝道の書
- .36 雅 歌
- .37 知恵の書
- .4 予 言 書
- .41 イザヤ書

190 キリスト教 Christianity

[.1→191]
[.2→192]

- .6 団体 : 学会, 協会, 会議, YMCA, YWCA
- .9 自然神学 → : 161

191 教義. キリスト教神学 Christian theology → : 132

* 各教派の教義は各々の教派の下に収めるが, 神学としての著作はここに収める 例 : 20世紀のプロテスタント神学

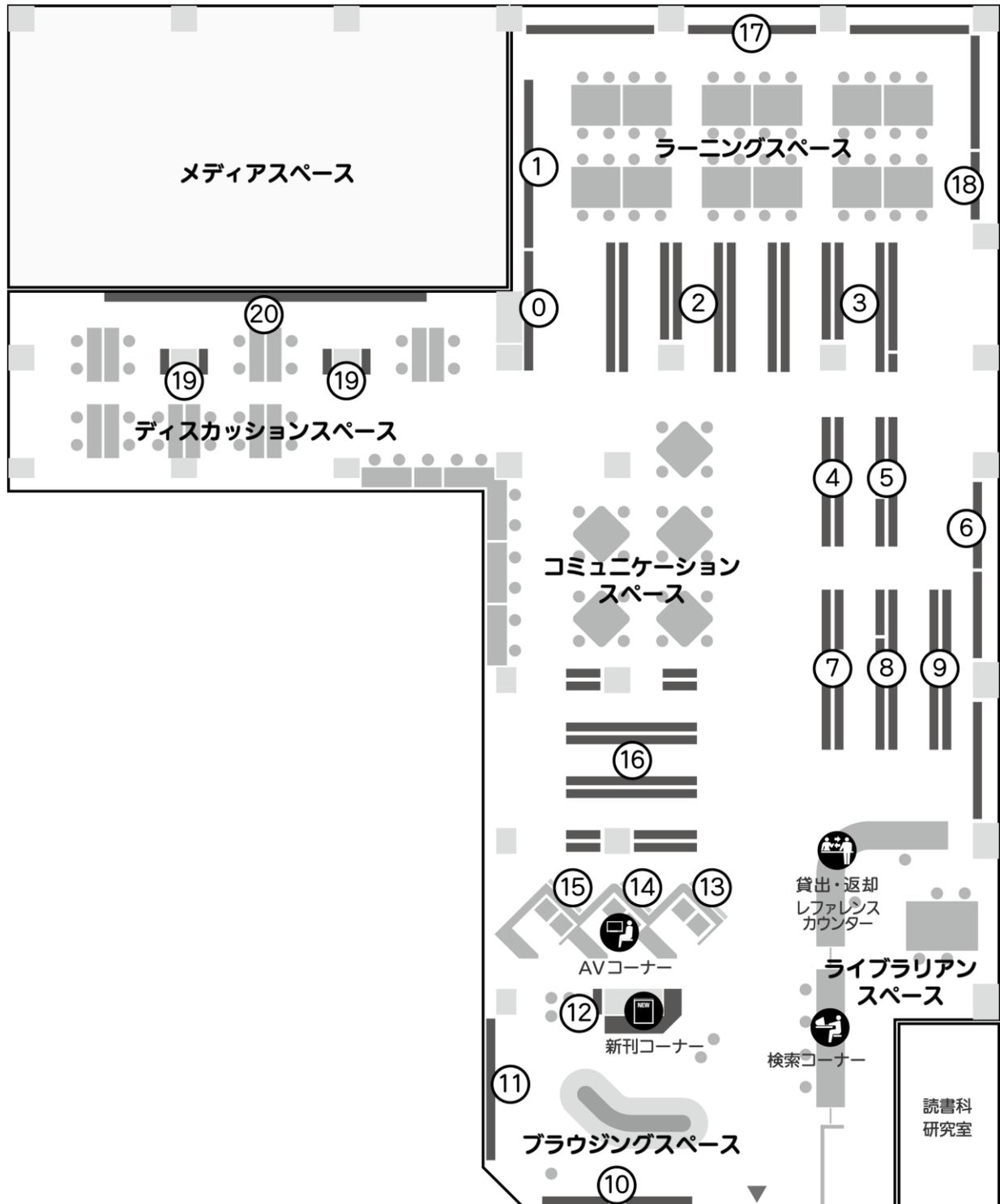
- .1 神, 三位一体
- .15 神のみわざ : 摂理, 創造
- .17 神の法 : 奇跡, 啓示, 予言
- .2 キリスト論 : 犠牲, 再来, 贖罪, 神性, 審判, 復活, メシア, ログス → : 192.
- .8
- .3 人間, キリスト教人間学, 原罪
- .4 救済論 : 恩寵, 懺悔, 宿命と自由意志, 信仰
- .5 天使, 悪魔, 聖者
- .6 終末論 : 死, 地獄, 審判, 天国, 来世, 煉獄, 靈魂不滅
- .7 キリスト教道徳
- .8 信条 [信仰箇条]
- .9 弁証法神学 [危機神学, バルト神学]
- .98⁺ 解放の神学

* 別法 : 198.29

5. 日本十進分類法 (NDC) 「相関索引」(部分)

ソウシ	日本十進分類法		日本十進分類法
蔵書印 (図書館)	014.2	造船	550
蔵書印譜 (書誌学)	024.9	造船学	550
創傷 (外科学)	494.33	造船業	550.9
(病理学)	491.63	造船行政	550.91
騒擾 (刑法)	326.22	造船金融	550.93
双子葉植物	479.4	造船経済	550.93
蔵書管理 (図書館)	014.6	造船工業	550.9
蔵書記	024.9	造船材料	552.2
僧職	185.7	造船所 (建築)	526.55
増殖 (細胞学)	463.5	(造船学)	552.9
(病理学)	491.68	造船政策	550.91
装飾画 (日本画)	721.5	葬送 (民俗)	385.6
装飾タイル	751.4	創造 (キリスト教)	191.15
装飾美術	757	想像 (心理学)	141.5
装飾文字	727.8	送像 (テレビ)	547.84
装飾煉瓦	751.4	創造教育	371.5
蔵書構成	014.1	葬送儀礼 (民俗)	385.6
蔵書点検	014.67	創造性 (心理学)	141.5
蔵書票	024.9	相続 (国際民法)	329.846
叢書目録	027.4	相続税 (財政)	345.53
蔵書目録	029	(税務会計)	336.985
曾参 (中国思想)	124.14	相続法 (民法)	324.7
搜神記 [書名]	923.4	操舵 (航海学)	557.11
送信機 (通信工学)	547.454	相対性理論	421.2
(無線工学)	547.542	宗達派 (日本画)	721.5
テレビ送信機	547.84	草炭	567.1
ラジオ送信機	547.74	雑談集 [書名]	913.47
装身具 (工芸)	755.3	草地 (畜産業)	643.5
(民俗)	383.3	造池 (水産増殖)	666.15
双神経類 (動物学)	484.3	装訂 (書誌学)	022.5
送水 (水道工学)	518.16	装蹄 (獣医学)	649.6
雑炊	596.3	送電	544.2
送水工 (水道工学)	518.16	送電工学	544.2
送水路 (水道工学)	518.16	送電方式	544.2
葬制 (民俗)	385.6	贈答 (民俗)	385.97
創世記 [聖書]	193.211	曹洞宗	188.8
双生児	493.96	遭難救助 (登山)	786.18
操船 (航海学)	557.11	雑煮 (料理)	596.21

●館内案内図



E. オンライン蔵書目録 (OPAC: Online Public Access Catalog)

1. 中学部図書館のオンライン目録は、次の方法で利用することができる
 - a. 中学部図書館内のオンライン目録専用機 (1 台) より
 - b. 関西学院中学部図書館ウェブサイト (<https://library.kgjh.jp/>) より
2. オンライン目録の基本操作

F. 代表的な OPAC

1. 公共機関
 - a. 国立国会図書館 (<http://www.ndl.go.jp/>)
 - 日本唯一の国立の図書館、日本最大の蔵書数をほこる図書館の OPAC
 - b. 兵庫県立図書館 (<http://www.library.pref.hyogo.jp/>)
 - 兵庫県内の図書館 (公共・大学図書館) の蔵書を一度に検索 (横断検索)
 - c. カーリル (<http://calil.jp/>)
 - 日本にある約 6,000 の図書館の蔵書を一度に検索 (横断検索)
 - d. CiNii Books (<http://ci.nii.ac.jp/books/>)
 - 国立情報学研究所が運営。日本にある大学図書館の蔵書を一度に検索。
 - CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>) では論文が検索できる
 - J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/>)、Google Scholar (<https://scholar.google.co.jp/>) でも論文検索ができる
2. オンライン書店
 - a. Books.or.jp (<http://www.books.or.jp/>)
 - 現在入手可能な本が検索できる
 - b. Amazon.co.jp (<http://www.amazon.co.jp/>)
 - 世界最大の通販サイト
3. 大学図書館
 - 関西学院大学図書館 (<http://library.kwansei.ac.jp/>)

G. オンラインデータベース

1. 関西学院中学部図書館ウェブサイトから (学内のみ)
 - ジャパンナレッジ
事典・辞書・ニュース・学術サイト URL 集などを集積した知識データベース
 - ブリタニカ・オンライン・ジャパン
ブリタニカ国際大百科事典・年鑑の検索
 - 朝日けんさくくん
朝日新聞社 1985 年以降の新聞記事の検索
 - スクールヨミダス
読売新聞社 新聞記事の検索
2. 関西学院大学図書館のウェブサイトから (学内のみ)

XIV. 校外学習（飛鳥）ポスター



A. 目的

1. 今までに勉強してきた図書館（知の構造）を活用した総合的な学習を実践するため
2. 一般的に認められている表現方法としてのレポートの体裁や方法を知るため
3. 3年生で作成する卒業レポートの準備のため

B. 個人演習（レポート）

1. 体裁

- a. **A4のレポート用紙**を使用する。
- b. レポート用紙は**表面のみ**使用する。
- c. 必ず「**自分の手**」で作成する。
 - プリントアウトしたもの（ワープロ、コピー、画像）など、「**機械の手**」によるものは不可。ただし**当日撮影した写真のみ**可。
- d. なるべく**ペン書き**で作成する。
 - 修正ペンやテープを使用しても構わない。
- e. すべてのレポート用紙を束ね、上はしの部分2ヶ所をホチキスでとめる。

2. 演習

a. 表紙

- 「校外学習（飛鳥）」、作成年月日、学年、組、番号、名前を記入する。

b. 目次

c. はじめに（序論）

d. 内容（本論）

- グループで作成するポスターのために個人で調べたことを書く。
- 調べる事柄は、**歴史、地理、文学、仏教、建築**など、いろんな分野からのアプローチが考えられる。図書館の分類(NDC)をヒントに、調べるアプローチを考える。
- 一度調べて終わりではなく、調べた内容について、疑問に思ったこと、分からない言葉を、さらに調べると深い内容になる。歴史事典、国語辞典などの参考図書を活用する。
- ここでは**事実のみ**を書く。感想や意見は不要。

e. おわりに（結論）

f. 参考資料

- 調べるにあたって参考にした本、雑誌、パンフレット、プリント、インターネット、話などの資料すべてを簡条書きにして示す

➤ 本の場合： 著者名『書名』（出版社名、出版年）

例：和田萃『飛鳥—歴史と風土を歩く』（岩波書店、2003）

- 雑誌の場合： 著者名『雑誌名』（出版社名、出版年）
例：リクルート『関西じゃらん』10月号（リクルート、2017）
- パンフレット、プリントの場合： 発行者「パンフレット名」（発行年）
例：国営飛鳥歴史公園「国営飛鳥歴史公園風景マップ」（発行年不明）
- 話の場合： 話し手の名前、話した場所、話した年月日
例：安田栄三、関西学院中学部1B教室、2017年10月1日
- ウェブサイトの場合： サイト作成者「サイト名」（URL）確認年月日
例：明日香村「明日香村公式サイト」（<http://www.asukamura.jp/>）2017年9月1日確認
- 作成者が不明なサイト、作成者のハンドルネーム（あだ名）しか分からないようなサイトを参考資料にしてはならない
- 「ウィキペディア」や「はてなキーワード」など不特定多数のユーザーが編集可能なサイトは、参考資料として不適切である
- 参考資料として、本を2冊以上使用すること

3. 注意

- この演習は、次のグループ演習の土台となるものである。文章のみではなく、箇条書き、色、図、表、絵など、自由に工夫して表現してよい。この演習はどれだけ深く調べられているかがポイント。

C. グループ演習（ポスター）

1. 体裁

- a. 配付される**模造紙1枚**
- b. マス目のある**表面のみ**使用する
- c. 必ず「**自分の手**」で作成する
 - プリントアウトしたもの（ワープロ、コピー、画像）など、「**機械の手**」によるものは不可。ただし当日撮影した写真のみ可。
- d. **マジックかペン書き**で作成する
 - 鉛筆、ボールペン不可（下書きは可）。下にうつらないように注意。

2. 演習

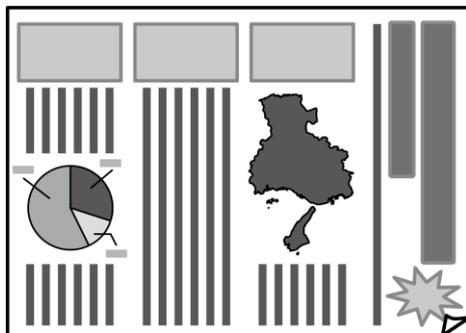
- a. テーマ
 - 飛鳥全体を取り上げる、いろんな遺跡を取り上げる、2つの寺院を比較する、1つの古墳だけをテーマとするなど自由。
例：「飛鳥のすべて」「亀石の謎」「石舞台古墳と高松塚古墳」
- b. 内容
 - ここでは事実のみを書く。感想や意見は不要。
- c. 表現の方法
 - 文章だけでなく、**グラフ（円、棒、線）、イラスト、図、写真**など、わかりやすさを追究する。
 - **写真は当日撮影したもの**に限る。

- ・ 色使いや文字のかたち（フォント）にも工夫を施し、わかりやすさを追求する。

d. レイアウト

- ・ 雑誌の見開きページや駅のポスターが参考になる。

びょうぶがた
屏風型



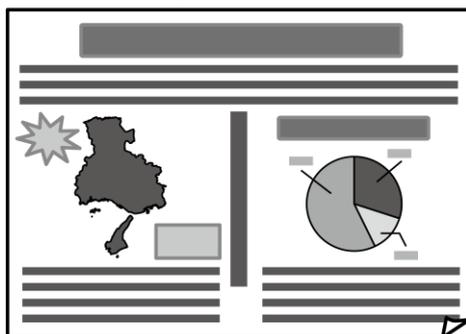
縦のブロックを作り、情報を並列させる型（横に応用も可能）

れっとうがた
列島型



日本地図（またはその左右逆）のような形に、対角線を意識した型

あうんがた
阿吽型（対照・対比）



左右または上下に情報を対比させる型

ひのまる・すみいしがた
日の丸・隅石型



中心に大きな要素を、四隅に強調したい要素を配置した型

e. 参考資料

- ・ グループ演習で使用した代表的な参考資料を2つあげる。
- ・ 参考資料の書き方は個人演習と同じ。

3. 評価の観点

- 全体のデザイン・装飾
- テーマ設定
- 丁寧さ・美しさ
- 理解・わかりやすさ
- 文字のデザイン・装飾

XV. 図書と図書館と現代社会



A series of horizontal lines for writing, starting from the top of the page and extending down to the bottom. The lines are evenly spaced and cover most of the page width.

XVI. 博物館見学レポート



博物館（科学館、美術館、文学館など）は、公共図書館と同じく、生涯学習をサポートする。図書など文字で表現されたものを中心資料となる図書館と違い、博物館はありとあらゆる表現が資料となる。公共図書館の場合と同じく、そのさまを見学とそのレポートで実感してもらいたい。ぜひ、学問や文化の奥深さを感じてほしい。

A. 目的

1. 基本的なレポートの書き方を体得するため
2. 博物館についての理解を深めるため

B. 見学

1. 冬休みに、近くの博物館へ見学、調査へ行く。社会科で配付された「ひょうごっ子ココロカード」を持参すると、入館料が無料になる場合がある。
2. できれば、詳しいところ、わからないところを、博物館の学芸員さんに聞く。
3. 忙しい最中、学芸員さんにお話をお伺いするわけだから、素直な感謝の気持ちを忘れない。

C. 体裁

1. A4 のレポート用紙を使用する。
2. レポート用紙は表面のみ使用する。
3. 必ず「自分の手」で作成する。
 - ・ プリントアウトしたもの（ワープロ、コピー、画像）など、「機械の手」によるものは不可。
4. なるべくペン書きで作成する。
 - ・ 修正ペンやテープを使用しても構わない。
5. すべてのレポート用紙を束ね、上はしの部分 2ヶ所をホチキスでとめる。

D. 演習

1. 表紙（1枚目、ページなし）
 - ・ テーマ（□□□見学レポート）、レポートの作成年月日、学年、組、番号、名前を記入する
2. 目次（2枚目、1ページ）
 - ・ 3.～6.の内容に沿うような目次を作成する
3. はじめに（序論）（3枚目、2ページ）
 - ・ 博物館を見学する前の、少ない予備知識やイメージから、予想、期待、不安などの自分の感想や考えを自由に表現する
4. 内容（本論）（4枚目以降、3ページ以降）

- a. 大きく施設紹介と展示内容にわけろ
 - b. 施設紹介については、開館日時、歴史、建物、交通などを記す。
 - c. 展示内容については、常設展と特別展にわけて、その内容を記す。わからないこと、詳しいところは学芸員さんに教えてもらえることがある。
 - d. 絵や図や表などを入れるので、わかりやすい表現を心がける（原則撮影禁止）。
 - e. この部分には事実だけを書く（自分の感想や考えは5の「おわりに」のところで）。
5. おわりに（結論）
- ・ 博物館を実際に見て、聞いて、調べて、学んだことによる、自分の感想や考えを、自由に表現する。

E. 参考資料

1. このレポートを書くにあたって参考にした本、雑誌、プリント、話、ウェブサイトなどをすべて箇条書きにして書く
 - a. 本の場合 著者名『書名』（出版社名、出版年）
 - b. 雑誌の場合 著者名『雑誌名』（出版社名、出版年）
 - c. 話の場合 話し手の名前、話した場所、話した年月日
 - d. ウェブサイトの場合 サイト作成者「サイト名」（URL）確認年月日
 - ・ 作成者が不明なサイト、作成者のハンドルネーム（あだ名）しか分からないようなサイトを参考資料にしてはならない
 - ・ 「ウィキペディア」や「はてなキーワード」など不特定多数のユーザーが編集可能なサイトは、参考資料として不適切である
2. 2つ以上の参考資料を列挙すること
3. 入場券の半券、パンフレット、展示品リスト、スタンプなど、**実際に見学して入手した「証拠」**をつけること



XVII. 『君たちはどう生きるか』を読む



『君たちはどう生きるか』は戦前に書かれ、戦争を経た今でも読み継がれている名著である。中学生の精神的な成長、人間として大切なこと、ものの考え方や捉え方などが物語風にわかりやすく描かれている。中学部では50年以上にわたって読み継がれてきている本である。同級生はもちろんのこと、先輩ともつなぐ「架け橋」になりうる本である。

A. 目的

1. 本を購入するプロセス（過程）を学ぶため
2. 論述文、説明文に慣れるため

B. 準備

1. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』を用意する。現在、書店で購入できるのは以下の3種類。
 - a. 岩波文庫版
 - b. ポプラポケット文庫版
 - c. マガジンハウス版（漫画版ではない方）
2. 書店で本を注文する場合、手元に届くまで2週間程度かかるそのことをふまえて注文する。
3. すでに持っている場合、購入する必要はない。

C. 精読

1. 冬休みの間に読む。
2. 3学期の授業では、『君たちはどう生きるか』を読んでいることが前提となる。
3. 学年末試験では、内容についていくつか出題される。



吉野源三郎 よしのげんざぶろう

昭和期の編集者・評論家・児童文学者。東京都出身。東京大学卒業。明治大学講師を経て、1935年（昭和10）新潮社の「日本少国民文庫」の編集主任となった。1937年中学生コペル君の成長物語『君たちはどう生きるか』を少年少女向けに執筆、高い評価を得た。同年、岩波書店に入社。第二次大戦後は月刊雑誌「世界」の初代編集長となり、戦後の進歩的社會派論壇をリードした。

主な著書

『人間の尊さを守ろう』 【150:Y】 『ぼくも人間 きみも人間』 【150:Y】
 『エイブ・リンカーン』 【289:R】

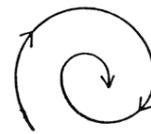
XVIII. 作文の技術



説明文や論述文は物語文と違い、その内容を読者にわかりやすく簡潔に誤解なく伝えることが最大の目的となる。そのため、一定の技術が必要となる。残念ながら、日本では言語技術、作文技術という概念そのものがないに等しい。よって、欧米の言語技術、作文技術を、日本語に援用することによって、その概念から学んでいきたい。

A. 目的

1. わかりやすく、伝わりやすい、簡潔で論理的な説明文や論説文の書き方を体得するため
2. 具体例として、欧米で行われている言語技術・作文技術を体得するため



東洋人の文章



英米人の文章

橋内武『パラグラフ・ライティング入門』
(研究社出版、1995) P.10より引用

B. 欧米の言語技術・作文技術

1. 名称

- a. コンポジション composition: 作文、英作文、組み立て、構成
- b. パラグラフ・ライティング paragraph writing: パラグラフを基本単位に文章をつくる技術

2. 構造

- a. コンセプトは、「一度バラバラにして、もう一度組み立てる」
- b. バラバラにする基本単位

エッセイ essay (文章)

ーパラグラフ paragraph (段落)

ーセンテンス sentence (文)

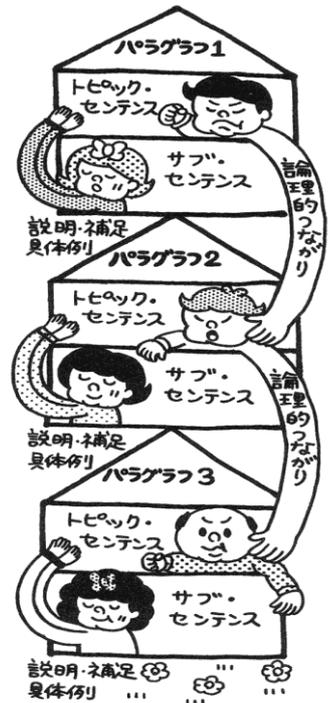
3. エッセイとは何か

- a. エッセイ essay
: 随筆、説明文、論説文、論理的な文章

b. エッセイの構造

- いくつかのパラグラフが論理的に組み合わせることによって、エッセイが成り立つ
- エッセイは、序論、本論、結論と論理的に構成される (物語のように起承転結ではない)

序論: 何を主題にするのか、それをどのように説明しようとするのかを述べる



戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論まで』(NHK出版、2002)
P.188より引用

本論：主題をもとにして、論理的に説明・展開していく。横道にそれない

結論：序論を言い換えるか、本論を要約して、エッセイが終わることを知らせる

4. パラグラフとは何か

a. パラグラフ paragraph:段落 日本語の段落には意味段落と形式段落の2種類があるが、欧米の段落はすべて意味段落である。よって以後、パラグラフとは意味段落を指す

b. |パラグラフ|トピック

・ |つのパラグラフには、|つの言いたいこと (トピック topic) しか書いてはいけない

c. パラグラフの構造

・ トピック・センテンス topic sentence (主題文)

パラグラフの中で中心となっている |つのセンテンス パラグラフの先頭にあるのがよい

・ サポートセンテンス supporting sentence (支持文)

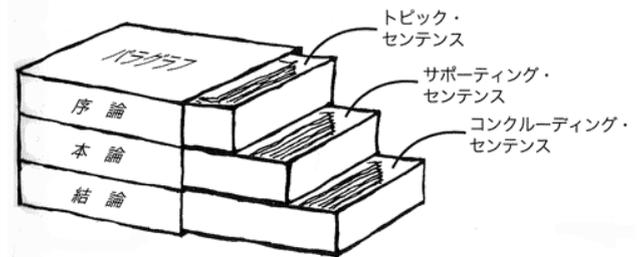
トピック・センテンスを補助するいくつかのセンテンス トピック・センテンスの詳細、説明、例示など あまりたくさんのセンテンスにならないのがよい

・ コンクルーディング・センテンス concluding sentence (終結文)

パラグラフの結びとなるセンテンス 次のパラグラフへのつなぎともなるセンテンス 多くの場合はトピック・センテンスを言い替えたセンテンスとなる

d. パラグラフを書くとき

- ・ パラグラフのはじまりは |文字分下げる (インデント)
- ・ パラグラフが変わるときは、改行 (new line)



泉忠司『泉式文科系必修論文作成術』(夏目書房、2003) P.148より引用

C. 日本語作文の基本

1. 誤字や脱字に気をつける

2. 横書きの場合、序数は算数字を用いる 縦書きの場合は漢数字

横書き：123…… 縦書き：一二三……

3. 漢字で書けるところは漢字で書く ただし、次の場合はひらがなの方がよい

a. 形式名詞：×「事」「物」「時」「所」 ○「こと」「もの」「とき」「ところ」

b. 補助動詞：×「成績が上がって行く」 ○「成績が上がっていく」

c. 副詞：×「漸く」「段々」 ○「ようやく」「だんだん」

4. 省略語ではなく、正式名称で書く

- ×「秀吉」「HR」「入試」 ○「豊臣秀吉」「ホームルーム」「入学試験」
- 5. 同じ言葉を何回も使わない 2回目以降は違う言葉に言い替える
エッセイが単調になってしまう、語彙（ボキャブラリー）の貧困さを表す
2回目以降は違う言葉に言いかえる→『類語辞典』（シソーラス）が有効
「一生懸命に」→「死に物狂いで」「必死で」「一心不乱に」「捨て身で」
- 6. むやみに接続詞を使わない
「そして」「また」「だから」など
- 7. できるだけ一文は短くする。読むリズムを考えるとわかりやすい
×一文が長い→主語と述語が離れて、主語と述語の関係がねじれる
○一文が短い→主語と述語はできるだけ近づける
【目安】 ×一文に読点（、）が3つ以上ある、一文が3行にわたる
- 8. 話し言葉ではなく、書き言葉で書く
×「……だし、……」「……と言うた。」 ○「……であり、……」「……と言った。」
×「……しなきゃ」「……だけど」、……やる、（文頭）なので…、見れる（ら抜き）、略語
- 9. 敬体ではなく、常体で統一する
×「……です。」「……します。」 ○「……だ。」「……である。」
- 10. 無意味な「 」や『 』は使わない
「 」: 会話、造語、強調、引用 『 』: 書名、「 」内の「 」
- 11. わかりきっている「私は」や「僕は」は使わない
- 12. 体言（名詞）止めの禁止
文末が体言（名詞）で終わる→論理的ではない
× 「おじさんのノート」を読んだコペル君。
○ コペル君は「おじさんのノート」を読んだ。
- 13. ぼやかした表現は使わない。エッセイでははっきり主張する。
×「……かもしれない」「……だろう」
- 14. 「……と思う。」を使用しない。エッセイは感想文よりも論理的でなければならない。

D. 書く方法

1. 全体の流れ（説明、論理）を短い言葉で考える。
序論→本論1→本論2→本論3→結論
2. それらの短い言葉をセンテンスで表す。そのセンテンスがトピック・センテンスとなる。
3. トピック・センテンスをもとに、サポーティング・センテンスを捕ぎなっていく。

E. 各学年での目標

1. 1年生 エッセイで、説明ができる。
2. 2年生 エッセイで、論理的な説明ができる。
3. 3年生 エッセイで、論理的な説明ができ、その論説に論拠を示すことができる。

F. 注意・その他

1. 上記をふまえて、エッセイを書く
 - a. エッセイは用意されているテーマに即して書く
 - b. エッセイは5つのパラグラフから成ること
 - c. それぞれのパラグラフは4つ以上のセンテンスから成ること
 - d. それぞれのパラグラフの先頭にはトピック・センテンスが来ること
 - e. トピック・センテンスには波線を入れること
 - f. その他、上記やチェック項目に注意すること
2. エッセイの完成は合格印をもらうことが条件 合格印をもらうまで、書き直して何回も提出する

G. 例文

『中学生のつくりかた』には、中学生の心得が書かれている。中学生が充実した生活を送るための心得だ。とくに人間関係を大切にすることが説かれている。人間関係での悩みが多い中学生には必携の1冊だ。

中学生は強くなければならない。人間関係が壊れることもある。日常にアクシデントはつきものだ。アクシデントを乗り越えるためには、自分自身が強くなければならない。

中学生は優しくなければならぬ。優しさとは他人に対する思いやりである。他人を思いやれば人間関係が壊れることはない。自分中心ではなく、「他人中心」で考えることが大切だ。

中学生はユーモアがなければならぬ。ユーモアがなければ人間関係は平板なものとなる。人間関係を豊かにするにはユーモアが欠かせない。他人を傷つけずに和ませるユーモアは想像力が基盤となる。

この本は、中学生への「応援メッセージ」である。豊かな人間関係をつくるアドバイスが詰まっている。憂いなく自分のやりたいことに打ち込むのが本来の中学生の姿だ。主体性をもった中学生生活を送るための1冊と言える。

XIX. 知的財産権と新しい人権



A. 知的財産権（知財）とは

1. () する気持ちを守る権利
 - a. 産業財産権
 - ・ 実用新案権
 - ・ () 権
 - b. () 権



B. 著作権とは

1. 著作物を () して、() を受ける権利
2. 英語
3. 記号



C. 著作物とは

1. 創作的 ()
2. 具体例



D. 著作権の種類

1. 複製権
2. 上演権、演奏権
3. 公衆送信権
4. 頒布権
5. 翻案権



E. 著作権の発生と消滅

1. 著作物は () つくれる
2. 著作物ができた瞬間に著作権が発生→ ()
3. 著作権が著作者の死後 () 年で消滅→ ()



F. 著作者人格権

1. 公表権

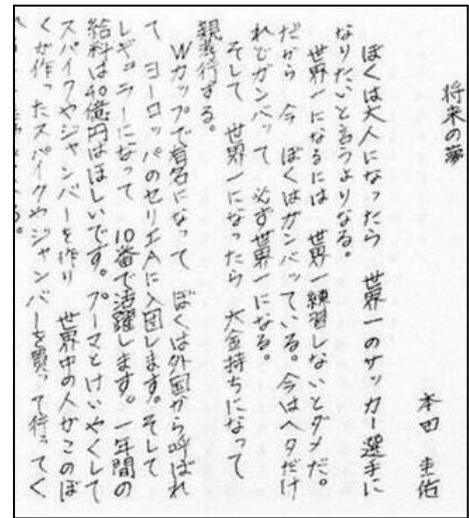
2. 氏名表示権
3. () 権
 - a. パロディは違法か? 文化か?

G. 著作隣接権

歌手 (実演家)・作詞家・レコード会社

H. 著作権の例外

1. 著作者の () を得た場合
2. () に利用する場合
3. 学校の () で使う場合
4. レポートなどに () する場合→ () が必要
5. 点字に訳す場合



I. 2012 年の著作権法改正

1. 違法 () 刑罰化
2. DVD () 規制
3. () OK



J. TPP (環太平洋パートナーシップ) 協定による変化 (2018 年ごろ)

1. 著作権侵害の () 化

違法コピーの取り締まり強化→パロディ作品は対象外?
2. 保護期間延長

作者の死後 () 年→ () 年

K. 著作権に関する事例

京都府警ハイテク犯罪対策室は 2010 年 6 月 14 日、人気漫画『ONE PIECE』などを、動画投稿サイト「YouTube (ユーチューブ)」に違法投稿したとして、名古屋市中区に住む中学 3 年の男子生徒 (14) を著作権法違反の疑いで逮捕した。府警によると、ユーチューブへの違法投稿の摘発は全国で初めて。被害額は概算で約 20 億円とも見られる。

悪質な違法投稿を繰り返していたのは、まだ中学 3 年の少年だった。京都府警によると、逮捕容疑は昨年 12 月 22 日から今年 2 月 9 日まで 4 回にわたって、自宅のパソコンから漫画 4 作品を著作権者の許可なしに投稿した疑い。府警の捜査員がサイバーパトロール中に発見。逮捕容疑を含め、計 30 作品、118 話分を投稿していた。

男子生徒はページごとにデジカメなどで写真を撮影し、ユーチューブに投稿。数秒ごとに画面が変わり、物語を読むことができるようにしていた。一方で「漫画ネタバレ情報局」と題した自身のブログやツイッターでアクセスを促し、府警は悪質性が高いと判断し、逮捕に踏み切った。

投稿した動画は 800 万回以上閲覧されていた。「雑誌が 1 冊 240 円～260 円とすると、単純計算

で約 20 億円の被害額になる」と京都府警関係者。14 歳が与えた経済的被害の大きさに驚いた様子だ。

共同通信「ユーチューブに漫画違法投稿容疑 名古屋市の中学生逮捕」(http://www.47news.jp) 2011 年 6 月 25 日確認より

川内康範氏が作詞した楽曲「おふくろさん」を森進一氏が歌うことを禁止したことが騒動になる中、社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)は 2007 年 3 月 7 日に「おふくろさん」の楽曲利用についてのコメントを発表した。

この問題は、川内氏が作詞した「おふくろさん」に、森氏側が保富庚午氏の作とされる歌詞を追加し、テレビ番組やコンサートなどで歌っていたというもの。著作者の川内氏はこれを意に反した、許可していない改変だと主張。森氏に歌唱禁止を言い渡しているという。

JASRAC はこれについて、「(森氏が歌っていた歌詞の追加バージョンは) 川内氏が保有する著作権を侵害して作成されたものであるとの疑義が生じている」と説明。そのため、改変されたバージョンを利用すると、「川内氏の著作権の侵害など、そのほかの法的責任が生じるおそれがある」として利用を控えるよう呼びかけている。

株式会社 Impress Watch「川内氏と森進一氏の「おふくろさん」騒動で JASRAC がコメント」(http://av.watch.impress.co.jp) 2011 年 6 月 25 日確認より

L. () 権

1. 個人生活に関することから、とくに () ことがらを守る権利
2. 転じて、個人情報を () できる権利にも

M. プライバシー権の侵害

1. 他人の個人生活に関することからを公表
民法や刑法の ()
2. 個人情報を適切に管理しない
() 法

N. 個人情報保護法

1. 氏名、性別、生年月日などの個人情報の () な取り扱いに関する法律
プライバシー権を保障するものではない

O. マイナンバー

1. 国民一人ひとりに () ケタの番号
2. 2016 年 1 月から開始
3. 税金・年金・医療などの () 化
4. 個人情報流出時の () 拡大の恐れ



P. プライバシー権に関する事例

1. A さんは、友達 B さんの許可なく、「B さんは C 君のことが好きだ」と Web 上に書き込んだ。
2. 高級ホテルの従業員が、「元日本サッカー代表 N と人気モデル T が来店。T、まじ顔ちっちゃくて可愛かった…。今夜は 2 人で泊まるらしいよ (どきどき)」と Web 上に書き込んだ。

3. 京都府宇治市の住民基本台帳のデータ（氏名、生年月日など約 22 万人分）が外部に流出した。

Q. () 権

1. () 権

- a. 自分の顔や姿が公開されて、恥ずかしい思いをしたり、つけまわされたりする恐れなどから保護する権利
- b. すべての人に認められる

2. () 権 () 権

- a. 自分の顔や姿で生まれる () 的価値を保護する権利
- b. タレントなど () に認められる

R. 肖像権に関する事例

- a. 某事務所に所属する M が歩いているところを中学生が携帯電話で撮影し、その写真を Web 上で公表した。
- b. カレンダー販売業者が人気アイドルグループ「おニャン子クラブ」のメンバー 5 名の氏名や画像（肖像）を使用したカレンダーを無断で販売した。
- c. 日本国内の道路沿いの風景を Web 上で見ることができる Google ストリートビューに偶然人が映り込んでしまった。

S. 複合的な事例

A さんがスマホで B さんの動画を撮影→B さんはシュークリームを 100 個買っていた→その動画を A さんが C さんに送信→C さんはその動画を Web 上に流した